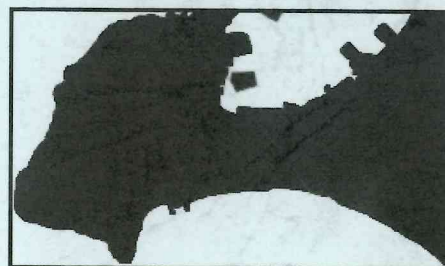


開港ら都市・・・
景観まちづくり会議
函館大会
開催記録

2002.10.18FRI~10.20SUN

北国からのメッセージ
いいベヤ
「港・まち並み」
考えよう



目次

1	はじめに	1
2	全体プログラム	2
3	全体会議1	3
4	全体会議2	4~10
	4-1 開会・実行委員長挨拶	5
	4-2 函館市助役挨拶	6
	4-3 開港5都市参加団体紹介	6,7
	4-4 各都市の活動報告	7~10
5	ウエルカムパーティ	10
6	分科会	11~34
	6-1 第1分科会	12~20
	6-2 第2分科会	21~26
	6-3 第3分科会	27~34
7	各都市代表者会議	35
8	オプションツアー	35
9	全体会議3	36~42
	9-1 開会・分科会報告	37~40
	9-2 各都市代表者会議報告	40
	9-3 大会宣言	40,42
	9-4 実行委員長謝辞	40
	9-5 次期開催地代表挨拶	41
	9-6 大会旗引き継ぎ・閉会	41
	*大会アピール	42
10	その他資料等	43~49
	・第1分科会報告資料	43~46
	・開港5都市景観まちづくり会議規約	47
	・開港5都市景観まちづくり会議 函館大会実行委員会規約	48
	・参加団体一覧	49

はじめに 1

2002年秋、私たちのまち函館において「開港5都市景観まちづくり会議函館大会」を開催させていただきました。この会議は、安政の修好通商条約により開港した5都市（新潟・横浜・神戸・長崎・函館）の市民団体が、それぞれのまちにおいて、開港都市としての歴史や文化を尊重し、身近なまちなみの形成やまちづくりに取り組む活動を互いに確認しあい、交流を図るため、平成5年秋に神戸市において始まりました。

その後、毎年各都市において順に会議が開催され、その成果は、それぞれの活動に活かされつつあるほか、市民団体相互の交流も盛んに行われるようになりました。

今回の「開港5都市景観まちづくり会議函館大会」につきましては、私たち、函館のまちづくり活動に取り組む市民団体が中心となって実行委員会を組織し、大会運営を成功させるべく準備を進めてきました。

今年は、折しも「函館市の市制施行80周年」に当たり、様々なイベントが開催されており、この記念の年に「開港5都市景観まちづくり会議函館大会」を開催できましたことは、誠に意味深いことと感じております。

ご参加いただきました皆様はじめ、多数の皆様からご支援ご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成15年3月 開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員会

テーマ 北国からのメッセージいいべや「港・まち並み」考えよう

日程 2002年10月18日(金)・19日(土)・20日(日)
(全体プログラム参照)

主催

開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員会

函館の歴史的風土を守る会 / 元町倶楽部 / 函館市伝統的建造物群保存会

函館デザイン協議会 / 西部町並みクラブ / 函館都心商店街振興組合

杉並、松陰、柏木商店街連合会 / 五稜郭商店街振興組合

湯の川まちづくり推進協議会 / 函館市中心街まちづくり協議会

西部振興会 / 協同組合十字街商盛会 / (株)はこだてティーエムオー / 一會の会

西部地域振興協議会 / 函館国際観光コンベンション協会 / 函館青年会議所
函館市

後援

函館市教育委員会 / (財)函館市文化・スポーツ振興財団 / 函館商工会議所
(社)北海道建築士会函館支部 / (社)北海道建築士事務所協会函館支部
NHK函館放送局 / STV函館放送局 / HTB函館支社 / UHB函館支社
TVH函館連絡事務所 / HBC函館放送局 / FMいるか / 北海道新聞函館支社
朝日新聞函館支局 / 読売新聞函館支局 / 毎日新聞北海道支社
日本経済新聞函館支局 / 函館新聞社

2 全体プログラム

全体プログラム PROGRAM

10月18日(金)	13:00 ▽ 14:00	受付		
	14:00 ▽ 17:00	全体会議1 第14回2002函館aaca景観シンポジウムへの参加		函館市芸術ホール 函館市五稜郭町37-8
	▼ バス移動 ▼			
	18:00 ▽ 18:30	全体会議2 主催者挨拶/来賓挨拶/参加団体紹介と各都市活動報告		五島軒本店 函館市末広町4-5
18:40 ▽ 20:30	ウエルカムパーティ			
10月19日(土)	9:30 ▽ 16:30	分科会	集合場所	山麓駐車場
		第1分科会 テーマ：北前航路と函館 コディネーター：鈴木克也（公立はこだて未来大学教授）		五島軒駅前店 函館市若松町15-7
		第2分科会 テーマ：函館を愛した芸術家たち コディネーター：桜井健治（函館市教育委員会生涯学習部長）		古稀庵 函館市末広町13-2
	第3分科会 テーマ：自然と都市防災 コディネーター：山内一男（函館の歴史的風土を守る会会員 建築設計事務所所長）		ホテルJALシティ函館 函館市宝来町22-15	
16:45 ▽ 17:45	各都市代表者会議 次期開催都市について/大会宣言の採択		ホテルJALシティ函館 函館市宝来町22-15	
10月20日(日)	10:00 ▽ 12:00	全体会議3 分科会報告/代表者会議報告/ 大会宣言/ 実行委員長謝辞/次回開催地代表挨拶/ 閉会の挨拶		函館美術館講堂 函館市五稜郭町37-8

全体会議 1

■全体会議 1 ■

日時 ◇ 平成14年10月18日(金)
14:00～17:00

場所 ◇ 函館市芸術ホール
函館市五稜郭町37-8



「第14回 2002 函館 a a c a
景観シンポジウム」への参加

【挨拶】

芦原 義信 (社)日本建築美術工芸協会会長
嶋田 裕司 渡島副支庁長
木村 孝男 函館市助役

【祝辞】

杉本 昌裕 文化庁調査官

【パネルディスカッション】

テーマ 港町函館の景観～港とひかり

パネリスト

田端 宏 道都大学経営学部教授
石井 幹子 照明デザイナー
會田 雄亮 陶芸家
阪田 誠造 建築家

コーディネーター

田村 明 都市政策プランナー，法政大学名誉教授

アドバイザー

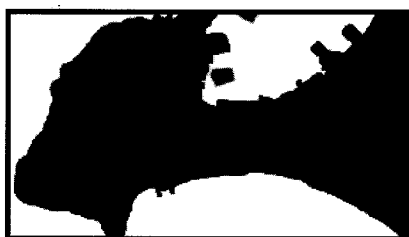
奥平 忠志 函館市都市景観審議会会長

【司会】

石崎 理 音楽家，パイプオルガン演奏者

4

全体会議 2



■全体会議 2 ■

日時 ◇ 平成14年10月18日(金) 18:00~18:30

場所 ◇ 五島軒本店 函館市末広町4-5

【挨拶】

浜島 國四郎 開港5都市景観まちづくり会議
函館大会実行委員長

木村 孝男 函館市助役

【開港5都市参加団体紹介および活動報告】

新潟市 にいがた花絵プロジェクト 小柳 行 弘

横浜市 山手西洋館ボランティアネットワーク 天川 勝三郎

神戸市 栄町通周辺まちづくり懇談会 堀川 栄 俊

長崎市 平和公園地域まちづくり協議会 深堀 義 昭

【司会】

清野 恒夫 函館の歴史的風土を守る会会長

■ 開会 ■ 司会 清野 恒夫 函館の歴史的風土を守る会会長

おまたせいたしました、これより、開港5都市景観まちづくり会議函館大会の全体会議2を始めさせていただきます。司会を務めさせていただき、私、函館の歴史的風土を守る会(歴風会)会長の清野恒夫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この度は、函館市の市制施行80周年記念事業として同時期の開催となりましたa a c aの景観シンポジウムをこの景観まちづくり会議の中に取り込み皆様に参加していただいたところでございます。

よってここであらためて開港5都市景観まちづくり会議の総会をいたしたいと思っております。会議時間は、30分の予定でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、主催者を代表いたしまして、開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員長、私の前の歴風会の会長でありました、浜島國四郎よりご挨拶申し上げます。委員長よろしくお願いいたします。

■ 実行委員長挨拶 ■ 浜島 國四郎 開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員長

開港5都市の皆様、遠いところからようこそ開港5都市景観まちづくり会議函館大会へお越しくださいました。私、ただいまご紹介をいただきました、本大会実行委員会の実行委員長を務めております、浜島でございます。皆さんにこうしておいできて、本当にうれしく思います。

最近、身体の調子がすぐれず、実行委員長を十分に務めることができるか心配ではありましたが、このように多くの皆さんに支えられてこのように立派な大会の開催となり心から感謝を申し上げます。

今回の函館大会は、ただいま司会のほうからも話がありましたが、函館市が市制施行80周年の節目ということもありまして、先ほど参加していただきました、a a c a景観シンポジウム同様、その記念行事の1つとして行われる記念すべき大会であります。

このような節目の時には、過去の反省とともに、現実を見つめ直し、よき未来を目指し再び歩み出す時であろうかと思っております。

安政6年から広く欧米諸国に門戸を開き、異国の文化と融合しながら、魅力に満ちた港町函館がかたちづられてまいりました。また何度かの大火からも力強く復興してきてまいりました。

そんな町並みを守り、伝えようと、私ども函館の市民団体も、今まで函館のまちづくりに様々に関わり、より良きまちのためにと力を傾けてきましたが、今日さらに新たな展開を求められている時と感じております。

いま日本全体が自信を失い、まちにも元気がなくなっているような状況でございます。

しかし、ここに参加された皆さんの心の内には、まだまだまちに再び元気を取り戻そうとする熱意、まちづくりへの情熱が燃えているものと、私は確信しております。その皆さん方の思いが、今回から掲げられることになった、ここでございます大会旗を作ったことに込められていると思っております。

ここで私どもは、もう一度原点に立ち返り、早くから開港の港として栄え賑わいをみせた港町の持つ歴史や文化、そして景観について考え、その独特の魅力を探り、再生し、さらに新しい時代にふさわしい港・町並みを求めて出航したいと思っております。そこで今大会のテーマを、北国からのメッセージいいべや「港・まち並み」考えよう、いいべやというのは函館弁でございますが、いいでしょうという函館弁でございます。このようにテーマを定めたところです。まさに地球の70パーセントは海であり、そこにはまだ多くの可能性が潜んでおり、港は海と陸をつなぐ場です。港町の重要性を再認識しながら、これからの3日間という限られた時間ではありますが、皆さん方が熱く夢とロマンを語り合い、心に残る思い出深い大会になることを願っております。今大会を通じ、ますます開港5都市の結びつきを強くし、お互いに力を合わせ、港町そして日本の元気回復の中心的役割を果たして参りましょう。

最後になりますが、前回の大会では、本当に残念ながら寒気と冷たい雨が降ってございました。函館の自慢する夜景とか、漁り火とか全然見ることができないで皆さんにお帰りいただいて非常に残念でした。

今年はどうでしょうか。昨日までは非常によかったんです。今日朝起きてどうだろうかなと思っていたらだんだん悪くなって、それで明日、皆さんは見学の予定だそうで、明日はいいのではないかと天気予報でございます。

ところで5年前から見ても函館は良きにつけ悪きにつけ大きく変わりました。個々については、各部会でそれぞれ出席の方々が、各部会でお話すると思っております。皆さんはひとつじっくりと見ていただいて、部会ではざっくりお話し合いをしていただければありがたいと、このように思います。また、函館弁を使い申し訳ございません。ざっくりお話し合いというのは、気がねなく好きなように話しましょうということなんですが、よろしくお願いいたします。この大会が実のあるものであるように願っております。

ありがとうございました。



4-2 函館市助役挨拶

○司会

ありがとうございました。続きまして、函館市長井上博司よりご挨拶申し上げるところでございましたが、本日、姉妹都市レイクマコーリー市のほうに公式訪問してございますので、留守居役の函館市木村孝男助役よりご挨拶申し上げます。

■ 函館市助役挨拶 ■ 木村孝男 函館市助役

開港5都市
景観まちづくり



ただいまご紹介をいただきました函館市の助役の木村でございます。本来でありますとただいま司会の方からもお話がございましたように、市長がご挨拶を申し上げるところでございまして、あいにく海外出張中のために出席できませんので、代わりまして私よりご挨拶をさせていただきますと存じます。

本日は、開港5都市景観まちづくり会議函館大会の開催にあたり、長崎、神戸、横浜、新潟の開港各都市からこのように多くの皆様にお越しいただき開催地といたしまして心から感謝を申し上げる次第でございます。

ただいま実行委員長からもお話がございましたように、函館市は大正11年に市制を施行されまして今年80周年という大きな節目の年を迎えたところでございます。

函館市は、近代日本最初の国際貿易港として、海外に門戸を開き、国内でもいち早く西洋文化を取り入れるなど、歴史の中で培われた文化や豊富な人文資源など数多くのすぐれた特性を背景に、南北北海道の中核都市として発展を遂げてまいりましたところでございます。

本日お越しいただいております、長崎、神戸、横浜、新潟の開港4都市につきましても同様に、諸外国の文明や文化を導入する窓口となって、異国情緒豊かに発展し、わが国の歴史と文化に多大な影響を与え、国際都市として発展したものと存じます。皆様とともに開港都市の歴史と未来そして地域のまちづくりについて語り合うことは誠に意義深いことと考える次第でございます。

この機会に、日頃のまちづくりの課題などについて活発な意見交換を重ねながら、今日からの3日間、大いに親交を深めていただきたいと思いますところでございます。

皆様には、3日間という限られた時間ではございますが、明日ご予約の分科会においてのタウンウォッチングでは、異国情緒あふれる西部地区の町並みやウォーターフロントをはじめ函館の魅力の一端に接していただければ、幸いに存じます。

また函館は三方を海に囲まれております。東は太平洋、西は日本海、その間を取り持っているのが津軽海峡でございまして、また魚の種類も多く、大変魚も美味でございまして、特にイカは函館の市の魚としても登録されております。どうぞこの海峡で捕れたイカを堪能していただければ幸いに思うところでございまして。

このたびの会議開催にあたり、大勢の皆様にご来函いただきましたことに、あらためてお礼申し上げますとともに「開港5都市景観まちづくり会議」のご盛会とさらなるご発展を祈念いたしましてお礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

4-3 開港5都市参加団体紹介

○司会

ありがとうございました。

続きまして、各都市からご参加された団体の紹介に移らせていただきます。私が都市名を読み上げましたら、ご面倒ですがその場にご起立いただいて、客席の方をお向きください。

それでは、北から順にご紹介いたします。新潟市からお越しの方、ご起立をお願いします。

新潟市からは、「サンクプロム石山商店街協同組合」「協同組合新潟あきんど塾」「新潟水辺の会」「にいがた花絵プロジェクト」「市民大学「新潟学」自主勉強会」「日本ユニバーサルカラープランナー協会」「KMM研究所」「新潟市建築指導課都市環境整備室」の皆様でございます。ありがとうございました。

続きまして、横浜市からお越しの方、ご起立をお願いします。

横浜市からは、「山手西洋館ボランティアネットワーク」「横浜シティガイド協会」「関内を愛する会」「馬車道商店街協同組合」「中区区政推進課」「横浜市都市計画局都市デザイン室」の皆様でございます。ありがとうございました。

○ 司 会

続いて、神戸市からお越しの方、ご起立をお願いします。
神戸からは、震災から復興いたしましたはりきって大変多くの方々がおこしいでございませう。
ご紹介申し上げます。「北野・山本地区をまもり、そだてる会」「旧居留地連絡協議会」「神戸南京町景観形成協議会」「栄町通周辺まちづくり懇談会」「新長田駅北地区東部いえなみ委員会」「魚崎郷まちなみ委員会」「(株)地域問題研究所」「神戸商科大学」の学生の方、そして「神戸市都市計画局アーバンデザイン室」の皆様でございませう。ありがとうございました。

続いて、長崎市の方、ご起立をお願いします。

本当に遠いところはるばるお越しいただきましてありがとうございました。

長崎市からは、「山手地区景観まちづくり協議会」「平和公園地域まちづくり協議会」「深堀地区まちづくり協議会」「大浦青年会」「三ツ山町犬継地区まちづくり協議会」「長崎市都市計画部都市景観課」の皆様でございませう。ありがとうございました。

受け入れ先の地元でございませうが、函館の方々は後ろのほうにありますが、立たなくて結構です。時間ありませんので、私のほうからお集まりの各団体の方を申し上げたいと思ひます。

「函館の歴史的風土を守る会」「元町倶楽部」「函館市伝統的建造物群保存会」「デザイン協議会」「西部町並みクラブ」「函館都心商店街振興組合」「杉並、松陰、柏木商店街連合会」「五稜郭商店街振興組合」「湯の川まちづくり推進協議会」「函館市中心街まちづくり協議会」「西部振興会」「協同組合十字街商盛會」「(株)はこだてティーエムオー」「一會の会」「西部地域振興協議会」「函館国際観光コンベンション協会」「函館青年会議所」「函館のチンチン電車を走らせよう会」「北海道建築士会函館支部」それと、函館市都市建設部都市デザイン課とまちづくり推進課、教育委員会生涯学習部と文化財課の皆様方でございませう。

各都市の活動報告 4-4

○ 司 会

それでは、各都市の活動報告に移らせていただきます。

それでは、始めに新潟市から「にいがた花絵プロジェクト」の小柳行弘様お願いいたします。

■ 新潟市 ■ 小柳行弘 にいがた花絵プロジェクト

♪は～るばる来たぜ函館へ～

どうも。始めます。おばんです。ちょっと緊張しております。函館の第一印象は、海、パチンコ、競輪、競馬、自衛隊、そして並木道です。今日、空港から来てそういうふうに感じました。あと驚いたのが、新潟の花はチューリップですが、函館市の魚はイカなんですね。これは、私、びっくりしました。そうした場合、新潟市の場合は何かなと考えたところ、南蛮エビだと思ひます。

え～こんばんは。始めまして新潟の小柳です。昨年は新潟大会、暑い中誠にありがとうございました。本当に暑かったですね。とてもすばらしい大会で、盛大に行われました。今回の函館大会も、昨年からとても楽しみにしてはしまして、新潟からは30人、50人で来ようかなと考えてはしましたが、今日は残念ながら18名でした。18名で来ました。函館のすばらしい知恵を学ぶために3日間楽しみにしたいと考えてます。

さて、各都市の報告ということで、今年の新潟の景観はどんどん変わりつつあります。

6月のワールドカップを中心に新しい橋がかかり、あの大きい川、信濃川の一番最後にトンネルが通り、また日本海側最大の30階の建物が完成に近づいています。どんどん港の近くが変わりつつあります。残念ながら市民の声は届かないところで、なんとなく展開しているような感じがします。

また、市民団体の活動ですが、各団体は特徴をもって活動しております。昨年の新潟大会で火がついた、堀割再生物語プロジェクト実行委員会というグループができて、昨年からシンポジウムを2回ほど行っています。また、ワールドカップにおいて商店街の整備、飾り付けも変わりました。一番感動したのは、4月に咲く桜をですね、大規模な雪室に入れまして、6月に桜を咲かしたということです。私共の景観ネットワークの団体が行いました。これも昨年の新潟大会でいろんな意見が行われたなかで完成したのではないかと考えております。こんな感じで新潟は変わりつつある状態です。

函館の関係者の皆様のご準備のご苦労は大変であったと思ひます。その熱意に応えて、函館の景観をたっぷりと勉強させていただきたいと考えてます。百万ドルの夜景のもとで3日間よろしくお祈りします。ありがとうございました。

にいがた花絵プロジェクト



4-4 各都市の活動報告

○司会

ありがとうございました。

続いて、横浜市から「山手西洋館ボランティアネットワーク」の天川勝三様お願いいたします。

■ 横浜市 ■ 天川勝三 山手西洋館ボランティアネットワーク

山手西洋館ボランティアネットワーク
景観まちづくり会議



横浜の天川と申します。今年はワールドカップサッカーが日韓共催で行われました。決勝戦が横浜で行ったことで、全世界に横浜の名がさらに広まったんじゃないかと思えます。また、38才という若い市長が誕生いたしまして、これも注目されたんじゃないかと思えます。中田宏と申します、どうぞよろしくお願ひします。

さて、私は昨年度までは山手234番館運営委員会会長として参加させていただいておりました。今年は山手西洋館ボランティアネットワークの代表として参加させていただきました。と申しますのは、平成10年度から、山手234番館を市民の手で運営するという実験事業を行ってまいりましたが、今年ペリックホールという山手で最大級の西洋館が公開されました。建坪283㎡、最大級の木造洋館です。なかなか立派なので、もし横浜へおいでになりましたら、まっ先にご案内申し上げたいと思っております。このペリックホールを含めて西洋館が7館公開されましたので、この7館管理を一元化しようということになりまして、それぞれの西洋館ごとの市民運営は手を取ってということでお任せされました。従って現在は、旧234番館運営委員会のメンバーが中心となりまして、山手の西洋館の全部を牛耳ってやろうというようなことで、さらに組織の力をつけて市へも交渉したり、あるいは西洋館の管理者とも折衝をしたり、いろいろイベントをやりたいということで現在進めております。おそらく来年の2月あたりには山手ユースギャラリーという、山手の学校の子供達の作品を展示ができるようなことで話を進めてます。山手には学校が11校ありまして、石川町というJRの駅は、毎朝女学生が8,000人降りるそうです。朝降りるということは、夕方また帰っていくわけです。そんなことで女学生の駅として有名でございます。

また、山手地区は、昨年セントジョセフスクールというインターナショナルスクールなんですけれども、由緒ある学校だったんですが、廃校になりまして、その跡地4,000坪に、5階建て226戸という大きなマンションを建てるという計画がもちあがりまして、そんなでっかいものが建てられちゃ困るということで、地域の住民が立ち上がりまして、反対運動をいたしました。そんなようなことがありましたので、まちづくりは住民が主体にならなきゃいかんというような空気がでまして、今年から山手まちづくり推進会議という会議、これも私が代表をやってますが、いま活動を進めているところでございます。だいたい今年度中くらいには骨子を固めて、地区計画とか、あるいは街づくり協定とか、そういうようなかたちにしていこうという段取りで仕事をしております。山手はそのぐらいにいたしまして、山手を離れて港の方をご紹介しますと、山下埠頭の貨物線があったわけなんですけれども、これが山下公園の上を通過するような高架橋で、非常に目にさわるといいですか、景観をそれこそ害する施設だったんですけれども、これが撤去されました。また、臨港線の一部を利用して山下臨港線プロムナードというものをつくりました。桜木町の駅から2キロほど歩けるような状態になっております。これも来年皆さんをご案内したいところでございます。

またその他には、赤レンガ倉庫が復活いたしましたし、それから長崎の代表者会議にちょっとご披露したんですが、横浜大棧橋埠頭を改修しております、250億円ほどかけまして、すばらしく立派な国際ターミナルが、今年の7月からオープンしております。これも皆さんのお目に是非かけていただきたい1つだと思います。その他、馬車道や中華街などの商店街でもそれぞれの個性を生かした歩行者空間、こういうものの整備をいま進めておまして、少しづつ回遊性がよくなると思いますか、そういう事業に取り組んでおります。また平成15年度末に地下鉄が新しく開通いたします。横浜駅から元町まで3キロほどの路線ですけれども、これが開通いたしますと、またまた街の様子がだいぶ変わるんじゃないかというような期待もしております。

来年は横浜開催ということで、皆さん横浜へおいでいただけたらと思うんですが是非その辺を題材にしながら、今後のまちづくりについて皆さんと熱心な討議を交わしたら本当に幸いだと思っております。

どうぞふるって皆さんご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

お願いをもちましてご挨拶に代えさせていただきます。

○司会

ありがとうございました。

引き続きまして、神戸市から「栄町通周辺まちづくり懇談会」堀川栄俊様よろしくお願いいたします。

■ 神戸市 ■ 堀川 栄俊 栄町通周辺まちづくり懇談会

こんばんは、大勢でよせてもらいました。ありがとうございます。

まずもって開港5都市函館大会おめでとうございます。関係者の皆様方、大変なご苦労だったと思います。心から申し上げます、ありがとうございます。

ちょうど去年の8月の暑い中、新潟大会が行われまして、先ほど非常に名スピーチを言われた小柳実行委員長を始め皆さんの本当に素朴な、そして心の温まる大会であったんじゃないかなと思います。こういうまちづくりもあるんだということを勉強新潟大会でございました。ありがとうございます。

神戸でございますけれど、何を報告しようかなと。平成7年に震災、1月17日に震災が起きました。神戸の大部分がやられました。それから我々力を合わせて、大変な目にあったんですけども、本当に是非神戸に来てください。もう完全に立ち直って非常にきれいな街ができております。

先ほど説明のありました8つの委員会がそれぞれ違った地域をそれぞれでまちづくりをやっております。いま現在皆さん方の中でちょっと秀でてるといいますが、こんなのあまり秀でちゃいかんのですが、要するに防災ということに関しては、神戸が一番経験を側近にやっておりますので、その辺の部分がいま現在皆様のお役に立ってる部分かな。それ以外の部分、まちづくりに関しては函館のような非常に景色のいい部分、神戸と大変よく似た坂もございまして、夜景もきれいで、女性も美しいですし、という部分はよく似ているんじゃないかなと思います。

是非函館大会が大成功に終わりますように我々も積極的に参加をさせていただきたいと思います。詳しくは分会でそれぞれの神戸のメンバーが発表すると思いますのでよろしくをお願いします。

○ 司 会

ありがとうございました。

引き続きまして、長崎市から「平和公園地域まちづくり協議会」の深堀義昭様よろしくをお願いします。

■ 長崎市 ■ 深堀 義昭 平和公園地域まちづくり協議会

ご紹介をいただきました深堀でございます。本来ならば山手地区の橋田代表がこの場でご挨拶をするところでございますが、今日、明日、長崎の方で行事がございまして今回出席できませんでしたので、代わりに私がお挨拶申し上げます。

先ほどご紹介がありましたように、長崎のもうひとつまちづくり団体が誕生いたしました。「三ツ山地区犬継」という所でございます。ここは長崎純心学園という女子校がございまして、その学校のふもとのまちを取り巻く環境の整備をしようということで、本日一緒に参加しております岡本代表を始めとする地域の皆さんが頑張っておられます。今日からの3日間の中で何かをつかんで帰れたらいいんじゃないかなと思っております。

さて、私が所属しております「平和公園地域まちづくり協議会」というのは、会長をされていた先輩が急に亡くなられて、これまた急遽私が会長になったばかりでございます。ここは、典型的な行政主導型のまちづくりをやっておるところでございます。何を申し上げたいかと申しますと、景観条例をこの地区に被せてしまったんですけども、この地区の中で最初に違反したのが建設省の方でございまして、まあ、違反というのはオーバーでございますが、その「原爆弔意施設」という建物が来年の7月にはオープンする予定です。当初、この施設の横に原爆資料館を創る際、平和公園の平米数はこれだけだから、その建ぺい率を考えて、他の建物は建てませんという約束で地下方式でお建てになったんですね。しかし、今回それと同じくらい大きな施設を創られます。おまけに地下にでございます。勝手なことをやるのがお役所だなと、私自身、役所に関わり合い持ちながら、つくづくそう思っております。

それから、山手地区の最近の出来事として、先般テレビでもにぎあわせをいたしましたので皆様の目にもとまったのではないかと思います。白い大きな巨体の船が2日間燃え続けるという惨事をしてしまいました。原因はまだはっきりいたしません。それまでしばらくの間は、この地区の埠頭に浮かべてあり、観光資源のひとつとなっております。燃えたその船を修繕して使ってあげるという申出がございまして、現在創っております1隻の船と2隻同時に就航するための準備をあわせていただいている最中でございます。

あまり誇らしげなことではないんですが、長崎の鶴の港と言われたその港が、これもまた行政官の手によって、埋立てをだいたいふされまして、相当変わってしまいました。しかし、どういふふうな最終結論がでるのか、首長さんが変わる度に計画が変わる。それが今長崎の港湾権を持つ県のやり方かなと思っております。前の知事さんはその海辺に官庁街をつくるからということで提案があったのですが、それもこの不景気でいつ官庁ができるのか全くわからない。

→次頁につづく

景観まちづくり



景観まちづくり協議会



ただ一角だけは、若い青年たちが自分たちの店として借り上げをいたしまして、いま賑わいの広場を形成しております。同じように埋立ての奥の方には、今度おいでになる平成17年までには、海辺の公園が誕生する予定でございます。が、そうはいつでも公園というかたちにまだ決めたわけではありませんから、公園と決めておきながら、今度は何ができるのかという、これまた不思議な状態であります。そういう意味ではやはり、その地区におります住民が十分な監視をして行政との話し合いの中できちんとしたまちづくりをして、将来の子供たちに渡していかなければいけない大きな使命があるかと思えます。

本日は函館の皆様方には大変お世話になっておりますが、似通った形態のまちを持っているまちとして、特に港のまつりでの光のイベント等の計画も4、5年前に長崎市も一緒に行ったようです。また、長崎市では、2月には新地の中華街を中心に、「ランタンフェスティバル」を開催いたしまして、100万人を超えるのではないかと賑わいをいただいております。どうか折に触れてご来場くださいますようお願い申し上げます。今大会が盛会裡に進まれますことを心より祈念申し上げますご挨拶といたします。

本当にありがとうございました。

○ 司 会

ありがとうございました。最後に心強いご挨拶でございました。以上をもちまして全体会議2総会を終了させていただきます。この後、ウエルカムパーティを行いますので、参加される皆様は隣の会場の方へお移り願います。皆様ご苦労様でございました。

5 ウエルカムパーティ

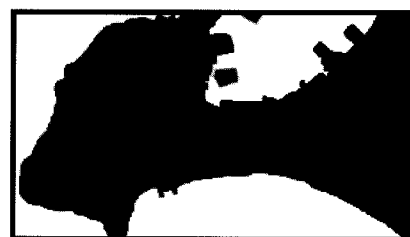
日時 ◇ 平成14年10月18日(金) 18:40~20:30
場所 ◇ 五島軒本店 函館市末広町4-5



【司会】 石崎 理 音楽家、パイプオルガン演奏者、現在、FMいるかパーソナリティーとしても活躍中
【プログラム】 *とにかく乾杯 *恒例!各都市参加者紹介・挨拶 *生バンドの演奏をどうぞ 演奏: グランパ
*開港5都市クイズもあるよ *閉会の乾杯 *おたのしみ各都市おみやげコーナー

6

分科会



■分科会■

日 時 ◇ 平成14年10月19日(土) 9:30～16:30

集合場所 ◇ 山麓駐車場（函館山ロープウェイ山麓駅向かい）

【第1分科会】

テーマ：北前航路と函館

コーディネーター：鈴木 克也（公立ほこだて未来大学教授）

【第2分科会】

テーマ：函館を愛した芸術家たち

コーディネーター：桜井 健治（函館市教育委員会生涯学習部長）

【第3分科会】

テーマ：自然と都市防災

～歴史的遺産・まちなみをどのように守るか

コーディネーター：山内 一男（函館の歴史的風土を守る会会員、
建築設計事務所所長）

◎タウンウォッチング（9：30～12：00） 集合場所 山麓駐車場（函館山ロープウェイ向かい）

散策コース [ガイド 星野 裕]

教会群～（大三坂）→港が丘通り～（八幡坂）→旧函館区公会堂→元町公園～（基坂）→ペリー提督像→
中華会館→外国人墓地→箱館丸→緑の島→ 高田屋本店跡地→高田屋嘉兵衛像・日露友好の碑→
赤レンガ倉庫群→摩周丸→ 会場（五島軒駅前店）

◎食事・アンケート（12：30～13：30）

アンケートの内容

- ・函館の景観・街づくりについての印象
- ・港と景観・街づくり（観光）とのつながり
- ・観光資源（歴史的建造物等）について
- ・ストーリー性について（例えば高田屋嘉兵衛、明治、北洋漁業等）
- ・観光情報等情報の重要性
- ・その他のディスカッションテーマについて

◎ディスカッション（13：30～16：30）

コーディネーター 鈴木 克也 アドバイザー 星野 裕 大井 清二

○テーマについて（コーディネーターから）

高田屋嘉兵衛をメインにやろうかと思ったんですが、もうちょっと一般的な方がいいかなと考えて、本日のテーマを、函館を事例にしながら景観、街づくり、観光、これらを併せて、それらのあり方について皆さんと意見交換をしたい。

○港町を巡って

はこだて未来大学の学生たちが夏休みに開港5都市を含め港巡りを行い、その報告かたがた問題提起をしたい。

【学生からの報告】（大久保彰之、桃野俊吾、北野勝也）

□8月16日から9月7日まで北前船の港町について研究するというテーマに港町を巡ってきた

□港のあり方について主に3つのことに焦点を絞って見てきた

- 1 観光
- 2 港湾関係（港景観、貿易等）
- 3 現在抱えている港の問題、今後の港はどのように進めればよいか

□港を廻ってきた印象等

- ・貿易というのがどこの港も減ってきている
（さびれてきている、倉庫が使われてない、人の往来がない、元気がない）
- ・どこの港もそこを親水地域、ウォーターフロントとして利用して活性化を図っていきたいと考えている。

□報告・提案・問題提起

- 1 港町と景観
 - ・港町は海、山、町が一体となった大変すばらしい景観を持っている。
 - ・景観にはいろいろな視点がある。
- 2 イベント
 - ・港祭り ・市民、観光客共に楽しめるイベント
 - ・新潟の夕日コンサート
 - 一市民有志が集まり始めた。
 - 一さらに成功させたメンバーたちが、他のイベントとかに参加して自分たちのノウハウとかを教えていって、他のイベントとかを成功させようと活動している。
 - ・冬のイベントに光を入れる ・町の景観と光の融合を大事にする
- 3 ウォーターフロント
 - ・どこの地域もウォーターフロントが重要なカギである ・観光客と市民との交流（にぎわい）の演出
 - ・船の今後の有効な活用 一函館での摩周丸・箱館丸、新潟での海王丸、横浜での氷川丸など
 - ・つながりぐあい 一ウォーターフロントの整備（駐車問題等） 一観光客が歩きたくなるような道に一駅から摩周丸を通して金森へのつながりがなく孤立気味
- 4 ストーリー性
 - ・観光資源もウォーターフロント同様つながりが重要
 - ・歴史からみた函館のストーリー性の問題（高田屋嘉兵衛、石川啄木、土方歳三）
 - 一そこに住む人の思い入れ、表現力
- 5 情報の重要性
 - ・長崎のパンフレット 一修学旅行生用のテーマごとにストーリーを持たせたパンフレット
 - 一割引クーポンがついている 一使いやすそうで見やすい
 - ・CD-ROMの活用 一開港5都市のお互いの紹介・連携、情報の共有化
 - ・このような大会の重要性 一港町ネットワーク

○4 都市からの意見等

タウンウォッチングの感想、学生の報告に対して、自分の地域での特徴、今日のディスカッションへの問題提起など

□ 横浜

- ・ 函館は落ち着いた、全体としてまとまりのある印象。
- ・ 横浜はウォーターフロントの面積が広く景観としてばらつきがある。あちらを立てるとこちらが立たず。新しくつくったところには人が行くが、もともとあったところには人がいなくなる。
- ・ 歴史的ないい建造物がたくさんあるが、不法駐車があり、いい写真が撮れなくて残念。
- ・ ストーリー性という話しに関心を持った。横浜の街もいろいろなストーリー性で語ることができる。同じところでも何か違うストーリーが必ずある。ストーリーによって街を語れば、一度来る方が二度来ることができる。その街に市民がどれだけ宝物を付与することができるのかということにかかっている。
- ・ まだ和洋折衷の住宅に住んでいる方がいらっしやる。住んでいる方の住宅への思いとは何か。住み心地はどうか。
- ・ 函館には金森倉庫の赤レンガ倉庫があるが、横浜も今年オープンした赤レンガ倉庫がある。まだオープンして半年ですのでかなりにぎわいがあるが、今後どうなるか期待と不安がある。

□ 神戸

- ・ 函館の港もおしゃれである。
- ・ 函館の港は居ながらにして対岸が見えるのがすばらしい。神戸の場合は、夜景を見るにしろ、花火を見るにしろ遊覧船で廻るか、漁船に乗るか。
- ・ 函館は残念なことに船がない。神戸の場合、たくさんの船がある。
- ・ 港が雑然としている。もう少し圧縮して機能的にも、景観的にも何らかの方法をすると函館山からの景観も変わるのではないか。
- ・ 遠景が美しく見えるような色の選定、高さの制限を考えられるのではないか。
- ・ 緑の島の有効な利用を考えていないのか。景観上の考え方は。
- ・ 緑の島を巨大カジノにしてはどうか。
- ・ まちというのは文化があって、そこに歴史がある。緑があり、川があって、海があって、そういった中で、その地域地域の特性を生かしたまちをつくっていく。そして住民の皆さんと一緒にまちをつくっていく。そして自慢ができる。すると観光客が来てくれる。時代とともに変化はあるんでしょうが、そういったものが組み合わせた中でまちづくりが進んでいくと思います。
- ・ 函館は坂道があって、ところどころに古い残しておきたい建造物が見受けられた。
- ・ 港町函館としては海辺が寂しい。

□ 新潟

- ・ 6年前に来て感銘を受けたのが歴史的建造物で民家をそのまま使っており、なおかつ、観光資源として利用している。新潟の田舎の方に豪農の館という立派なものが保管されて観光資源になっている。昔からある農家群で土蔵があったり、作業小屋があったり、白壁があったりするが、廻ってみたら土蔵は崩れ、場合によっては壊しているところもある。それでなんとか函館さんに学んで保存できればと思う。
- ・ 香港には高層建築のすばらしい景観がある。2～3年前から函館で行政と市民団体の方ともめているという噂を聞いて、なおかつ今日見ていたら、ちまちましたマンションが建っている。私であれば100m以下の建物は建てさせないというくらいの提案をしたい。なんか変わったものを、民間資本とかどどん入れて、行政は金がないから大したことはできない。香港はイギリスから99年間であれだけのもものになった。我々は百何十年経っても相も変わらず古いものを大事しようとかいってる。
- ・ 新潟の港は河口港で非常に砂がたまって使いにくい。けれども県内、北陸でも一番整備された港である。そのわりに活用が上がってない。函館は古い建物が残っていて、それをうまく使っている。新潟にはそういうのがほとんどない。逆に、これから先の開港都市として100年後を目指して、まちをもうひとつ造ってしまってもいいんじゃないか。他ではいろいろ残していかなければならないものがいっぱいあるという大変さがある。新潟にはないだけに、これから造っていくということでは、逆に皆さんよりもおもしろいものが残せる可能性がある。どういうふうなかたちで、どういうものを残せばいいのかという勉強にきた。
- ・ 駅がとても寂しい、賑わいがない。思っていたよりも規模が小さい印象を受けた。駅に函館らしさが全く感じられない。駅舎自体に函館という景観がないと感じる。
- ・ 今朝ロイヤルホテルから朝市に来るのにずっと歩いて、確かに表通りは立派ですけど、空地があり、なんとなく活気がない。
- ・ 駅からウォーターフロントへの一体を整備すればもっとよくなる。

- ・ 景観という歴史とか文化とかその方向でしか語られないが、色彩というのはとても大事である。今回見て、色の統一感がない。物語性を持たせた中でも、一つ一つのテーマの中に色があっていいと思う。函館は屋根が青と赤が非常に目立つ。新しく塗り替えてあっても青と赤が目立つ。樹木でナナカマドの赤がすぐ目に飛び込んできた。色から景観を考えてみたい。
- ・ 函館は3度目で、夜景がとってもきれいで、また来たいと思っていた。家族にも見せたい。話の中で一度見たら二度と来ないとか話があって、あんなきれいな夜景なんで二度来ないのかなと思って不思議にお話を聞いた。
- ・ 函館の町並みは大正ロマンを感じさせる。新潟にはないのでちょっとうらやましく感じる。
- ・ 新潟の港は川港で、開港は神戸よりおくれて明治元年にやっと開港したが、外人居留地は設けず、領事館とかなんかもみんなお寺や民家というものを使ってやったのであまり外国の方のものが残っていない。函館はそういうのがたくさんあり大変うらやましい。
- ・ 新潟の花絵プロジェクトは、新潟はチューリップの球根が有名で、その球根を育てるために美しいチューリップの花を摘んでしまう。もったいないということで、市民で考えましてチューリップの花を使って再利用できないかということで、ボードとかにチューリップの花をさしまして、チューリップの花絵をつくっている。それが、今回新潟市都市景観賞に入りまして、そのボードでつくったチューリップの花も景観に入れてくださり感謝している。
- ・ 高田屋嘉兵衛の話しにひかれてきたが、そっちの方向にはいきそうもない。

□長崎

- ・ 函館を教会群のほうから見せていただき、函館山の中腹から海岸まで大きな道がいっぱいできている。景観としても非常にいい。長崎は階段状で車でも自転車でもあがれないような道である。
- ・ 対岸から見る景観も非常にいい。景観が良くなければまちづくりはやりにくい。
- ・ 「北前航路と函館」というテーマに惚れて参加した。実際ここに来てみて北前船がどこに着いたか、こういう場所がはっきりしない。
- ・ 函館駅と摩周丸の間がどこからどうやっていけるのかわからない。観光資源としては確かにいいテーマであるが宝の持ち腐れである。駅から船への人の流れをつくるものがあると良い。
- ・ 高田屋嘉兵衛の関係で、函館は北洋漁業の基地として栄えてきたはずだが、その基地らしいものがない。
- ・ 朝市の売り子の質が悪い。値段を2倍かけている。
- ・ ライトアップの機材器具がきたない。昼間の景観を邪魔している。
- ・ 上の方から道路が海岸までいきわたっている。あんなのはどこにいてもない。上の方は観光として大変立派である。港の方に来て、船を生かすことが大事だと思った。長崎も、函館も船が観光のポイントでいろんなことやるもの活性化には必要である。
- ・ 港をもう少し活用したらもっと函館のまちが美しくなると思う。

○函館からのコメント1（アドバイザー 星野 裕）

□和洋折衷の住宅について、そこに住んでいる人の住み心地はどうか

実際、内部はかなり改装・改造されている。昔の建物なので防寒性とかいろんな不備があり、そのままでは住めない。しかし、外観については、できるだけ昔のものを残すように市からお願いもあり、また、住んでいる方も住宅に愛着を持っていらっしゃり、建て替えの際もできるだけ材料その他も昔のものを使う、あるいは図面を見てもっと昔の形態に直している場合もある。

□景観として新しい建物、あるいはマンションなどが結構邪魔をしている

私もそう思います。これについて私のコメントを申し上げますと、函館で最近、またバブルの時代あたりに建ったマンションや公共建築物など大型の建物のデザインについては非常に問題がある。

函館は、自然の景観は非常にいいと、それから昔からある建物、教会建築は非常にすばらしいけれども、最近建てている建物がよくない。

これはデザイン的にすぐれたものを建てようという意識が高くないことからきていると思われるし、市自体にも、そういう新しく建つ建物について高さとかについては非常にうるさくいうが、外観のデザイン性についてもっといろんな議論をしたほうがよい。



口駅や空港の外から函館に来られた方が最初に函館に着いた時に目にする空港ビルやJR駅舎が非常に貧弱である。

まったくそのとおりだと思います。空港も駅も建て替え中で、2~3年後には両方とも一新すると思います。いいデザインの建物が建つかということについては、私もまだよくわかりませんが、外から来た方にとって、要は一つのシンボルですし、それと機能としても駅あるいは空港で降りた時に、正しいインフォメーションがあるか、親切なガイドがあるか、あるいはよくいらっしやいましたというホスピタリティを感じさせるような、いろんな仕組み、工夫があるか、いずれにしても函館はまだまだその点は不十分だと思います。

長崎に行った時に、長崎を降りた途端にホテルまで荷物をただで運んであげますと、ここで荷物を預けてしまっ、すぐに観光に出かけられますというサービスに出会って、大変感動いたしました。あのようなホスピタリティというのはやはり、街にとっても大きな魅力になると思います。そういったことについて、函館はまだまだこれから努力する必要があると思います。

口ライトアップについて

先日、夜の8時くらいに元町公園くらいから公会堂、ハリストス正教会のあたりを歩きました。非常にきれいにライトアップされた建物があるわけですが、その途中出会った人はわずか3組です。一つは女性1人、もう一つは女性2人、それから女性4人、いずれも全部女性です。男性は全然歩いてないです。安全なところではあるんですけど、夜ライトアップの建物を見て歩くことが必ずしもポピュラーではないということが残念ですし、今後考えなければならぬ問題です。

ところが、タクシーでゆっくり走ってくる人はたくさんいます。明らかに観光客です。あそこは歩いたほうがいいところです。タクシーからだ非常に見づらい。歩けば素晴らしいという情報が伝わっていないという気がします。函館の良さを上手にアピールすることが、今後まだまだ必要なんじゃないかと思ひます。

○函館からのコメント2（参加者）

口協同組合十字街商盛会 若山 直

かつて函館で一番大きかったデパートが、いま水道局の庁舎で使われていますが、これがいま移転するので、この使い道を今後どうするか、一般公開して市民全体に見せ使用方法を募ろうとやっています。十字街の商盛会の真ん中にあるので、後でもめ事がないようにやっています。

和洋折衷の住み心地はどうかというのがございましたが、妻籠、馬籠とかを見てまいりましたが、そこに比べたら住みやすいです。和洋折衷は、西洋的に住める環境があつて外見が和風になっているというのが、非常に住みやすいのではないかと。また、函館らしさというのがありましたが、屋根のトタンはカラーの概念というのはないので、各自昔からの色を踏襲してやっているとあります。そういう伝統があるのかなと思ひますが、それを全部統一していいのかどうか。雑然としているのが函館らしさではないかと私は思ひます。

もう一つ、タクシーで廻っている人はすごく多いです。ハリストス正教会など降りてみたら素晴らしいんですけど、タクシーから全部のぞいて、教会の土台だけ見て帰る人が結構多いです。

まず、第1に高齢化して動かないこと。第2に短期決戦で来ていますので、函館の滞在時間が極端に少ない、ゆとりは全然ないけど一応は見てみたいというのがあつた。日本人自体の休みの取り方が変わらないと難しいことと思ひます。

口函館市伝統的建造物群保存会 小林敏夫

私は伝統的建造物群保存会の会長をやつてまして、伝建物の中にも、生まれてからいままで住んでる方、手放された人から買った方、住みながら商売されてる方、住まないで貸している方、いろんな温度差があります。それをまとめていくのは非常に難しいわけです。

また、住んでいる方が非常に高齢化しているのもあつた。もしも亡くなって遺産問題とかで空家の問題があつた。それから防災の問題があつた。非常に苦慮していることがあつた。

それからアイスクリームとか客引きが非常に多い。それが観光客の壟断を買っているのではないかと。これをどうしたらやめられるのか、いま来年に向かって我々、市と協議している最中であつた。

また、私、商売は船会社ですが、港で何か作つたりしようとする、港の景観がどうかという、そういう市民団体もいて、我々港を整備する側とバッティングを起こす、非常に難しい土地だと思ひます。

それから北洋基地がどこにあるだろうかということでしたが、函館の場合、サケとカニのいわゆる母船式で、母船が集結して食糧とか漁具とかそういうものを調達して、また母船が函館から出ていったということで、北洋基地というのはないんですね。北洋基地を残すことはできないんですね。

色の件があつたんですが、函館は色のセンスは悪いです。それで今日函館山に行くと思ひますが、函館に電車がございまして、昔、H状に電車の路線があつて、街路灯が電車の関係で非常にいいなと思つてたんですが、函館の市街地がどんどん東の方に延びて、こちらの電気が非常に少なくなったということで、昼、函館山に登った人に見えるように、屋根の色をうまくH状にやつたらいいんじゃないかと思ひましたが、

市の方も補助金とか厳しいですし、いま、函館の人口も少なくなっていくと、後何年かで再建団体になるのではと危惧しております。

それと港ヶ丘通ですが、私たちはあそこの場所を観光地として思ったことは一度もない。昔、友達とか遊んだ町です。ところがいつの間にか観光で脚光を浴びて、それで迷惑している人も中にはいるんじゃないかと思えます。私としては、静かな昔の佇まいに戻して欲しいというのが、率直な意見です。

□函館の歴史的風土を守る会 清野恒夫

函館の歴史的風土を守る会（歴風会）も立ち上げてから25年が経ちました。最初は、今日行きました元町公園にある旧渡島支庁舎を札幌に移転するというので、自分の町にあるものをほかに持っていくことはとんでもない話だと、声を上げたのが集まって歴風会をつくったんです。そういう意識をもっていた方々、いわゆる自分の家を大事にしていた方々が、なんとか自分の家を保って改修しようというのが残って、数が多いんです。

そういう建物は大火で燃えてきているわけですけど、焼けるたびに不死鳥のように立ち上がるのが函館でございます。どうしてかという北海道開拓庁、宮内庁から見舞金がございます。それだけ北海道の中で函館の地位といいますか、そういうものがあつたということだと思います。それでたちどころに家が立ち上がる。その度に大工たちが、おそらく意匠を凝らした住宅を造つたであろうと推測されます。それらが函館の美しいまちづくりの一つの方法になっています。

実は歴風会では、いま問題を感じています。市は観光宣言都市になりまして、観光客が大変いらっしゃる、私たちもありがたいと思つてますが、もう少しそこに住んでいる人間が、先祖伝来から受け継いだ建物とか、または人と人との交流の中で安心して住める町、ホッとするような町、そのホッとする町に再び皆さんが来て、人に触れて、もう一回来てみたいというような町、そういう町づくりを我々はしなければならないだろうと思つています。

歴風会では、少しでも函館の町の良さ、残すべきもの、風景、そういうものに対して市民の方々に目を向けていただきたいというふうな活動を25年間してまいりましたけれども、本当に我々に大事なものは、建物や坂道やそういうのを残すことも大事だけれど、そこに住んでいる人たちの、本当に精神的安らぎとか交流とか、そういうことをもっともっと大事にしていかないと、いつの間にか箱ものだけの町になってしまうと思つています。

□函館市伝統的建造物群保存会 信永昭三

私の印象は、各都市の皆さんが本音をおっしゃってくれて、これはすばらしいことだと。函館市長に聞かせたいと思うことがいっぱいありました。

一つ違う方向から感謝申し上げたいのが、未来大学の学生さんがあんなにすばらしい研究をなさって発表したものは、学術的背景を持っておられる、全日本的な要素を持っておられる、時間があればまだまだこうだと言えるのを持っておられると思つています。函館で最近非常に誉れだと思つたことは、未来大学ができたことです。

あの話の中でストーリー性というのがございました。函館には野外劇というのを10日間夏に開いております。これはすごいイベントです。この中には函館を土台とした大ストーリーが入っています。

教会のことにつきましては、一つ出来事をお知らせします。いまの神父が私らの教会に参りまして、そして教会を開放したい。信者は開放したらだめだ、お祈りしてる姿の中に、観光客が入ってきたらお祈りができない。いや開放する。ということで、いまの神父が開放したんです。開放してしばらくしたら、十字架がなくなつたんです。それも祭壇の真ん中にあるすばらしい十字架が一発で盗られてしまったんです。これは警察のすばらしい捜査で見つかりました。いままたそれを飾ってございますけれども、そういう事件等もありながら、観光地と宗教というちょっとした馴染めないものも、あの地区にはいろいろありまして、ご承知おきいただければありがたいと思つています。

□函館市教育委員会文化財課 菅原繁昭

私自身普段から思つているのは、ずっとここに住んでいると、この町そのものが見えなくなってしまう部分があります。高校の時の同期なんか東京方面に行つている。そして毎年1回同期会なんかで集まってくると、連中から言われるのが、お前ら何やってんだと、外からみると函館のいい情報が全然入ってこない、お前ら地元で連中がだらしないからだ、叱咤激励をされます。逆に言いますとこの町の特質というのはある意味で競争心に乏しいというのが、ある意味でおっとりしている部分があるような気がします。

先の整備という関係でいいますと、確かにここは国際観光都市宣言してます。それに伴つていろんな整備を行つてますが、その結果、一方では失われるものもあるのではないかと、生活者の視点で見ますと、整備されることによって本当に自分たちにとって快適環境かといわれると、そうではない現象も一方では生じてくる。そこから、観光政策をとっている街の有り様と、それからそこに住んでいる人たちの微妙なバランスという難しさがあるのではないかとと思つています。

→次頁につづく

それと、今日、横浜でシティガイドとして活躍している島田さんとお話しして、自分たちが横浜について学んだことを対外的にということではなく、市民のために還元している。それをメインテーマだということをおっしゃってました。私も本当にその通りだと思ってました。函館にもこの街の豊かな歴史性というものがあって、ソフト的な財産だと思ってます。それを地域の人にもっと知ってもらいたいという気持ちもございます。

私たち、いま、伝建地区なんか持っているものですから、子供たちと一緒に歩いて学ぼうということで今年からそういうことをやっています。

それから昨年、ボランティアガイドのサークルと伝建地区や函館の歴史などの勉強を一緒にしたんですけど、お互いに蓄積したものを出し合って共に学び合うということが大切だし、そこからすべては出発するんだらうと思います。そういう意味で、皆さんは行政といろんなつきあい方をしていると思いますが、敵対し相互に批判するのは誰でもできると思うんですが、そうじゃなくて、本当にお互いのいいところを認め合って、なおかつ、問題のあるところはきっちり批判していく、その創造的批判を持って、やはり一緒にまちづくりをしていくことがベストだと思います。

□渡辺道子

私も函館に来て40年になりますが、それから40年間あまり変わってない気がします。行政的には国際観光都市という、函館市はそれを一番の収入源としているようなので、結局、整備というものは行政的に行われるんですけど、私の40年間住んでいるところが函館山と港のちょうど中間地点で、環境も大変いいんですけども、住民のための整備は、大きな病院は移転し、日用品を買うところが近所になく状態ですから、観光客の方がいらっしやなくなる夜の7時頃からは海の底のような静かさ、そういう環境になってしまいます。

○函館からのコメント3（アドバイザー 大井清二）

□皆さんご記入のアンケートでかなり共通していたこと

【良い部分】

- ・海に抜ける坂道の景観
- ・歴史的建造物群

【悪い部分】

- ・元気がない、活気がない景観
- ・海辺部分の町並みが特にさびしい
- ・船が生かされていない

【気になるもの】

- ・景観が観光客向けに作られすぎていないのか

□アンケートへの感想

坂道だとか、建物だとか、道路幅だとかという部分は、なぜそうなったかという必然性があったらよかった。それに対して最近できてくるものが、観光客向けということで、必然的ではなく偽物というかわざとそういうふうにつくったという、必然性があまりないものが増えてくるんじゃないか。

その中の一部分を発展させると、先ほど批判のあった朝市が観光客向けだけになってる、地元向けじゃない部分もありまして、必然性から生まれてくるまちの雰囲気は函館らしさだと思うんですが、それから若干ずれてきていると思いました。

必然性の中で生まれてくるまちの雰囲気にちょっとした規制だとか、ちょっとしたプラスアルファを付けてやると、より魅力的な町並みができるのかなと、皆さんのアンケートの感想とさせていただきます。

□冬のイベント（クリスマスファンタジー）

北海道のイメージという中で、どうしても本州の方は、帯広とか、富良野とか、広大な大自然というイメージをよく持たれて、函館空港に着くとちょっと違うなと思われるんですが、そういう中で、北海道人は函館というのを別の感覚で見て、異国情緒がある魅力的な街ということで、本州の方が描いている北海道のイメージイコール函館というのはちょっと違うと思います。

その中で、雪もあまり降らない、氷の彫刻も雨で溶けると、冬のイベントがなかなか成立しないというのが函館でありまして、5年前に、異国情緒の街で、雪も降らないことはないの、雪が似合う、それと港町ということも意識して、ちょうどウォーターフロントの前の海の上にカナダから運んでくるもみの木を浮かべて、イベントをやっているんですが、これがどっちかという我々がイメージしている函館らしさなんです。

ちょっとロマンチックで、ちょっと雪があつてというようなイメージが、まあ、函館の人間が自ら感じているイメージということで、こういったイベントをやっています。

□今後の港町函館のまちづくり

現在、港・海に関しては、市民生活の中で接点は非常に少なくなっておりますが、そうした中で、海洋科学創成研究会というような会ができてたりして、函館国際海洋都市構想というのが叫ばれております。

世界各地の海洋科学者を函館に集めようと、海の研究都市を函館にもつてこようと、国連の関係の国際機関も函館に1個もつてこようというような、港・海に関わりある、新しい大きな街づくりを、いま新しいムーブメントとして動き始めている現状です。

○コーディネーターゲストのコメント

コーディネーターの教え子で神戸商科大学から百合岡さんに来ていただいた。いま、未来大学と神戸商大と横浜市大と学生連合をやろう、そして港町ネットを作ろうとしている。

□神戸商科大学 百合岡雅博

今回いろいろ街を廻らせていただいて、専門が経営ということで、そういう視点でものを見ようと、それぞれの経営資源はたくさんあるが、それがどうしても点でしかない、面でつながっていないところがさびしい。

神戸から道南のツアーで小樽、札幌、それと函館あたりを2泊3日で廻りますと非常に強行軍で函館には夕方入って夜景を見て、朝市で食べて帰ると、そういう勢いではないかなと、その中で函館を全部見ようと思うと非常につらい状況があり、函館の持っている良さをを全て使われきっていない気がします。

函館というのは、神戸とか横浜とかに比べると非常に小さい街ですんで、それが逆に強みとして、他の都市との差別という意味でも、個性の要因になるのかなという意識もしています。観光スポットを歩いて廻ってもらえるようなかたちのものがあればおもしろいかなと思います。

あと、私の方、神戸の方でベンチャー研究会というのを立ち上げまして、ベンチャーのアイデアの中で、音楽というもの使えないかと考えています。5感の中で聴覚という部分が景観の中で欠落してるのかなと考えております。

○函館への提言～フリーディスカッションからの意見

- ・函館はスケールが小さい、情報面での効率がいい、感動を残すためには歩かなければならない。この街は歩いて（観光して）もらう街に切り替えよう。
- ・函館には大きな津軽海峡があり、湯川温泉、大沼公園、松前とかあり、そういうものを取り込んでの函館ではないか。
- ・眺望とか、全体の自然環境だとか、歴史的建造物はなかなかの資源である。しかし、肝心のウォーターフロントがパーフェクトじゃない。港町らしさはまずウォーターフロントじゃないか。船が少なすぎる。船がもっと目立たないとだめだ。いろんな船があるなということにならないといけない。船と港とウォーターフロント、これがこの地域に非常に重要である。各地ともウォーターフロントについて認識が高まってきてる。函館はやりやすい、なぜなら小さいから。さらにすでにかなりやっている繋ぐだけである。
- ・函館が、イカとか、美味しいとか、函館山とか、単調に宣伝されている。情報面で大きな欠点がある。情報は大切であり、きちんとするべき。
- ・いままでウォーターフロントの商業施設を作るという話だったんだが、港だから船のいろんなものがいろんな所に、なじみがあってある。できれば動いているそういう姿をつくり出すことが、ひとつの景観をなす。外人墓地から見て、船が入ってくる場所は感動的である。海で船が動くようにするにはどうしたらよいかというのがキーテーマとなる。
- ・ホスピタリティ、おもてなしが大事だ。本当のおもてなしは、自分たち自身が快く思っていないとできない。自分たち自身が幸せで、楽しくて、この街が好きだというのがないとだめだと。観光と市民生活の両立が必要、片方だけではできない。
- ・いま住んでいる方が中心である、そして訪れる人との両立、それと学校があるので学ぶ人、あるいは働く人、その4者というものを少し考えなければならない。4者が一緒にテーブルに付く場づくり、そうしたソフト面も必要。先ほど、教会の十字架が盗まれたということで、いまの4つの出会いがうまくいっていないと思った。
- ・教会や神社、そういう違った場所に行くのも観光体験である。ここに行ったら沈黙しなければならないとか、そういうことを伝えるのもおもてなしの一つである。
- ・駅前のウォーターフロントが完全に死んでる。アクセス道路を初めとして、繋がり具合が悪い。摩周丸へのアクセスが分からない。駅からウォーターフロントのところ、駅前のウォーターフロントから金森倉庫群の間、そのエリア全体としてのウォーターフロントの整備が必要。全体としてのまとまりが弱い。
- ・摩周丸の活用について
展示内容はいい、解説者が欲しい。積極的な宣伝をする。・汽笛を、例えば1日3回鳴らす。
市民がどんどん出入りするような仕掛けをする。・駅から船までレールをつなげ接点をもたす。
テッキのうえに工夫がほしい。・子供の興味を引くような展示をする。（例：JR関係の動く模型）
- ・市民が憩える場が西部地区にない。函館公園も市民はあまり来ない。もし、はこだて未来大学が函館公園にあれば、西部地区は変わっていた。
- ・北国らしさの演出がほしい。特に冬場は北国のイメージを鮮明に出した方がよい。

○コーディネーターからのコメント

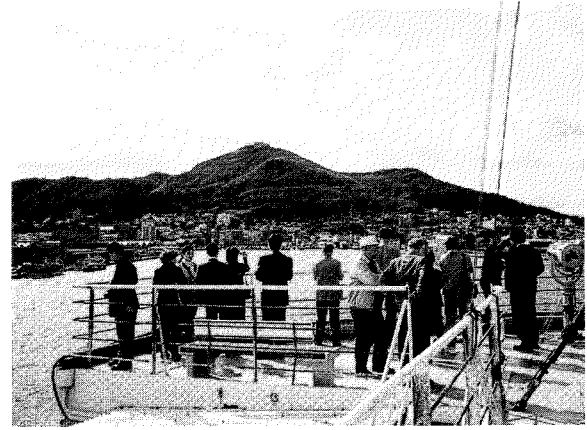
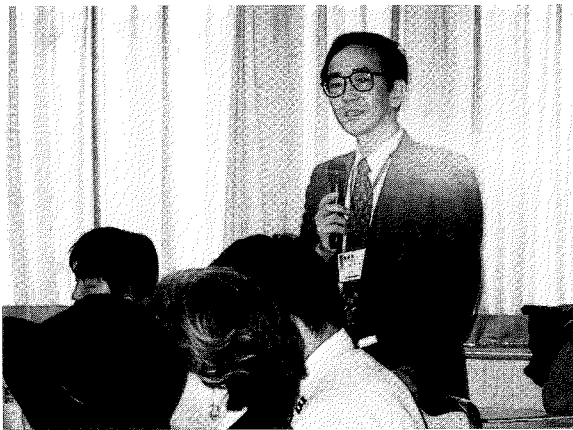
今回、最大のテーマにしたかったのは高田屋嘉兵衛でありました。なぜ、高田屋嘉兵衛が素晴らしい人物かというと、私の意見では、ペリーが開港する、要するに西洋文明が外部から入ってくる100年前に、既に完全に合理的人間精神ができあがっていたからです。それは何故かということ、港町文化であったからだというふうにつながっており、その共通点は何かということで、私は3つ仮説を立てています。

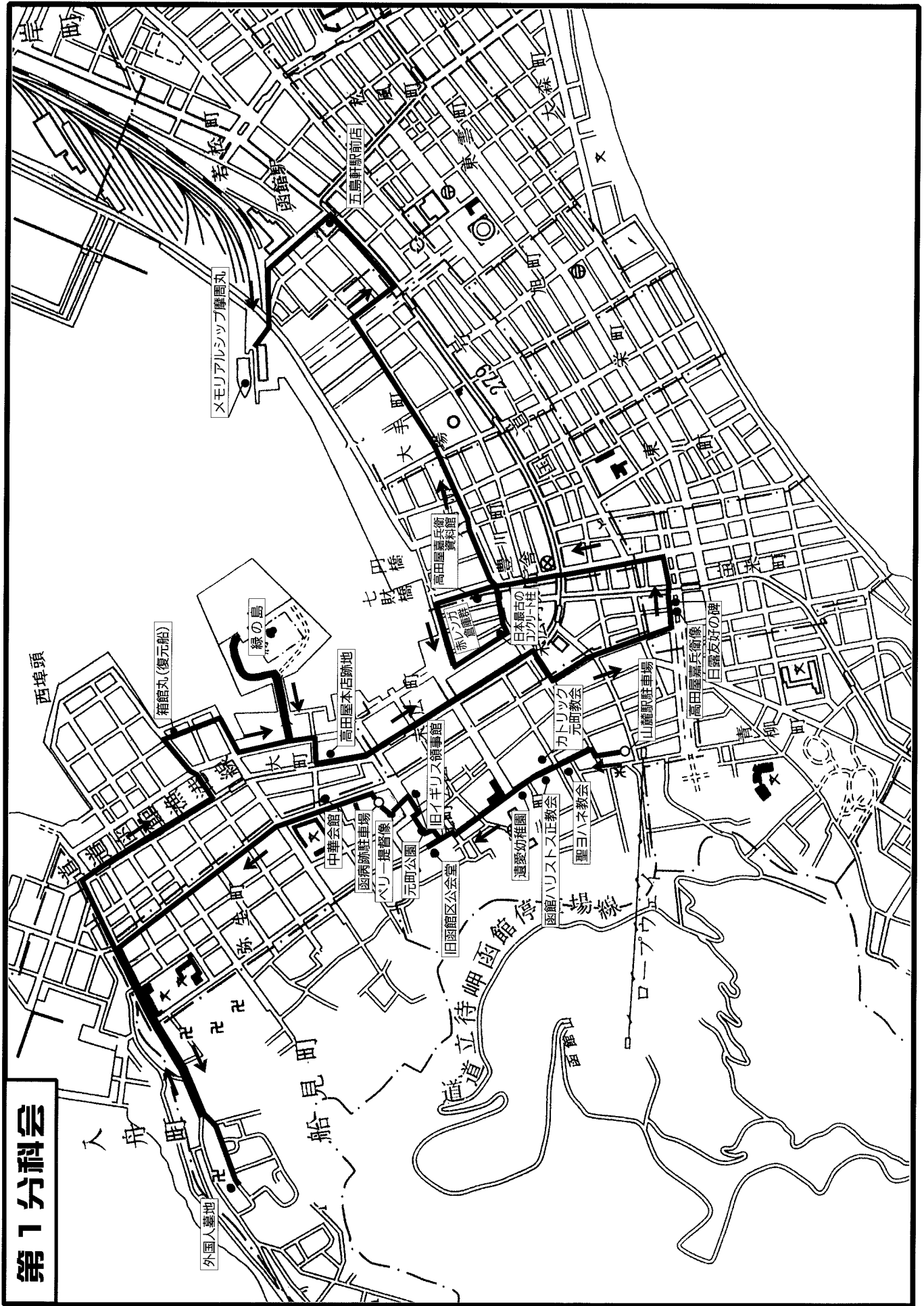
1つ目は「勢い」。港町の勢いというのがポイントだと、高田屋嘉兵衛は勢いを持っていた。あのころ海へ出るというのは、リスクがものすごく大きかった。50%が亡くなってしまふ。海は命を懸けて行くんだというのがものすごく強かった。

2つ目は「オープン性」。違った意見を受け入れる心持ちがある。函館は200平方メートル四方の中に全宗教があるんだと、カトリックも、プロテスタントも、ロシア正教も、でも宗教戦争はこの地域はないんだと、これが誇りだと言わなきゃ。

3つ目は「好奇心」。新しいものに対する好奇心を持っている。

これは港町が共通して持っている原点である。この精神を思い出して欲しい。





第1分科会

◎タウンウォッチング（午前の部 9:30~12:20）

集合場所 ロープウェイ山麓駅 コーディネーター 桜井健治

～ 徒 歩 ～

亀井勝一郎生誕の地碑

亀井勝一郎は、明治40年（1907年）2月6日、ここ元町で喜一郎の長男として生まれ、弥生小学校、函館中学校、山形高等学校、東京帝国大学文学部に学び、のちに文芸評論家、思想家として活躍した。昭和12年「人間教育」、同18年「大和古寺風物詩」等不朽の名著を残し、昭和40年日本芸術院会員に推挙された。晩年の大作「日本精神史研究」は、亀井文学の集大成として高く評価されたが、昭和41年11月14日病により他界し、作品が未完に終わったのが惜しまれる。

勝一郎は終生函館弁を使い、函館のサケのいずしやイカの刺身を好んだという。なお、青柳町函館公園手前には、勝一郎直筆による寸言「人生邂逅し開眼し瞑目す」と刻まれた文学碑がある。

ハリストス正教会

ロシア領事館附属聖堂として安政6年（1859年）に建てられたのが始まり。現在の聖堂は大正5年（1916年）ロシア風ビザンチン様式で建てられたもの。司祭ニコライが伝えたと言われるギリシャ正教の由緒ある教会。「ガンガン寺」の愛称で市民にも親しまれている。国指定重要文化財

旧函館区公会堂

【内部見学】

明治40年（1907年）8月の大火は函館区の約半数、9,000戸近くを焼失した。この大火で区民の集会所であった町会所も失ったため「公会堂建設協議会」が組織され、建設資金として区民の浄財を募ったが、大火後のため思うように集まらなかった。当時、函館の豪商といわれた相馬哲平氏は、自分の店舗など多くを焼失したにもかかわらず5万円の大金を寄附したため、これをもとに明治43年、現在の公会堂が完成した。この建物は北海道の代表的な明治洋風建築物で左右対象形になっており、2階にはベランダを配しているほか屋根窓を置き、玄関、左右入り口のポーチの円柱に柱頭飾りがあるなど特徴的な様式を表している。国指定重要文化財。

元町公園

明治から昭和25年まで、箱館奉行所や開拓使がおかれ、北海道、道南の行政の中心だった場所。港を見おろす高台にあり、公園奥には復元された旧北海道庁函館支庁庁舎のルネッサンス風の洋館、その左手に古いレンガ造りの函館支庁書籍庫が建っている。

開港記念館(旧イギリス領事館)

【内部見学】

函館に各国の領事が置かれたのは、安政6年（1859年）に貿易港として開港する前後からで、イギリスにおいては、初代領事ホジソンがこの年の9月に着任し、称名寺を宿舍として執務を行ったことに始まる。文久3年（1863年）、大工町（現元町）に領事館が建てられたが、慶応元年（1865年）に火事で焼失し、以後2回建て直すが、いずれも大火で焼失した。この建物は、大正元年（1912年）頃に新築されたもので、昭和9年（1934年）の閉館まで領事館として使われていた。設計は上海から呼んだイギリス人キーツによるといわれ、全般にシンプルな意匠で明治の洋風建築としては非常に洗練された建物である。函館市指定有形文化財。現在は、開港当時の函館の様子を紹介する記念館となっている。

～ バ ス ～

中華会館

中華会館は純中国様式の建築として日本に現存する唯一の貴重な建物である。函館から中国への海産物貿易の盛んな頃に在函華商が信仰する三国時代（魏・呉・蜀）の蜀の武将として活躍した関羽＝関帝を奉祀する聖所として、中国から大工・彫刻師・漆工らを招き、煉瓦・祭壇・什器等資材も中国から取り寄せ、約3年の工期と巨費を投じて明治43年（1910年）12月に竣工した。

内部は金色燦然たる関帝壇を中心として小部屋を配し、装飾、調度品は壮麗を極めていいる。

弥生小学校

昭和9年の大火後の復興都市計画の一環として、6つの不燃質復興小学校が建設されたが、その最後を飾る校舎で、中央に運動場を取り込んで避難場所として意図されている。啄木は、首宿社同人の吉野白村の世話で、この弥生尋常小学校の代用教員となった。同僚の女教師に、彼の憧れの人となった橘智恵子がいた。

ペリー会見所跡

安政元年（1854年）3月、アメリカ海軍提督M. C. ペリーは、幕府との間に日米和親条約を締結し、その直後、5隻の艦船を引き連れて箱館に入港した。ペリーは、この地にあった有力商人山田屋寿兵衛宅で、松前藩家老松前勘解由らと会見し、市中の調査や、港内測量などを行って箱館を去った。

新島襄海外渡航の地碑

【下車】

新島襄は、新知識を海外に求め、吉田松陰の海外渡航の失敗を考慮し、渡航地を蝦夷地に選びました。元治元年（1864年）江戸から来て、ニコライ司教（ハリストス正教会2代主教）に日本語を教えたりなどして脱出の機会を待っていたが、同年6月14日（新暦7月17日）深夜、福士成豊（日本最初の函館観測所解説者）の助力により、この地から国禁を犯して海外渡航に成功しました。上海経由で渡米した新島襄は、修学10年の後、明治7年（1874年）帰国し、翌8年京都において同志社大学の前身である同志社英学校を創立しました。この碑にある「男児志を決して千里を馳す 自ら辛苦をなめてあに家を思わんや却って笑う 春風雨を吹くの夜枕頭なお夢む故園の花」の漢詩は、新島襄の自作自筆によるもので元治2年香港での作です。

箱館運上所跡

欧米5か国との通商条約に基づき、安政6年（1859年）、函館は横浜、長崎とともに開港し国際貿易港となった。これに伴い、税関の前身である運上所が設けられた。開港翌年の入港外国船は、商船30隻、捕鯨船21隻、軍艦13隻の計64隻であった。貿易では、輸入はほとんどなく、輸出は中国向けの昆布が4分の1を占め、そのほか、いりこ、するめ、干あわびなど海産物が上位を占めていた。明治5年（1872年）、運上所は税関と改称された。昭和43年、海岸町中央埠頭に港湾合同庁舎が完成し、税関も同庁舎に移転した。なお、明治44年に新築された庁舎は、木造ルネッサンス風の洋風建築であったが、昭和47年に取り壊された。

北海道第一歩の地碑

明治維新後、函館は名実ともに北海道の門戸となり、この地を踏むものがその第一歩を印したのが東浜棧橋である。青函航路は、明治6年（1873年）に開拓使の弘明丸によって一般輸送を開始し、明治12年に三菱会社が開拓使から青函航路を譲り受け、以後、日本郵船鉄道会社などによって継続されてきたが、明治41年に国有鉄道の航路として比羅夫丸、田村丸が就航した。当時、連絡船は沖に停泊し、客は舢舨でこの棧橋との間を行き来した。この棧橋は、明治4年に作られた。連絡船の棧橋は、明治43年2月に若松埠頭に新設移転したが、その後もこの棧橋は活用され、北洋漁業の根拠地などとしても重要な役割を果たしてきたが、とくに戦前の北洋漁業の発着時には、大変な賑わいをみせていた。

函館市文学館

【内部見学】

亀井勝一郎や久生十蘭、長谷川海太郎など、函館出身またはゆかりの文学者についての資料が展示してある。2階はすべて石川啄木に関する資料の展示となっている。この建物は、大正10年（1921年）に第一銀行函館支店として建設されたもので、煉瓦および鉄筋コンクリート造3階建です。昭和39年に同銀行が移転し、株式会社ジャックスが使用してきましたが、平成元年、文化振興に役立ててもらいたいということで同社より函館市に寄贈された。

古稀庵

【昼食】

明治から戦後にかけて港町として栄えたころ、海産物の店舗として建てられた。能登半島から大工を呼び、ヒノキを贅沢に使った建物からは、当時の繁栄ぶりがうかがえる。

◎タウンウォッチング（午後の部 13:00~15:30）
～ バ ス ～

高田屋嘉兵衛屋敷跡・高田屋嘉兵衛銅像・ゴローニン幽閉場所

函館の発展は、高田屋嘉兵衛によってその基礎が築かれたといっても過言ではない。明和6年（1769年）兵庫県淡路島に生まれた嘉兵衛は、寛政8年（1796年）28歳のとき函館に渡り、以来、文政元年（1818年）郷里に帰るまで、函館を拠点にして回漕業や漁場経営などで巨額の富を得た。嘉兵衛は、国後および択捉両島の漁場を開拓し、北洋漁業の先駆者として歴史に名をとどめたばかりでなく、公共事業や慈善事業に大きな功績を残した。

さらに、ゴローニン事件という日露国家間の問題を、民間の立場ながら無事解決に導いたことでも有名である。高田屋の全盛は、寛政13年に嘉兵衛のあとを嗣いだ金兵衛（嘉兵衛の弟）が、幕府の許可を得てこの地域5万坪を拝借し、一角に豪華な邸宅を建てた頃である。その規模は、敷地面積で2町（約220m）四方もあり、邸内には山を築き、池を造り、また高価な石が置かれていた。銅像は、嘉兵衛の功績を称えとともに、函館開港100年を記念して昭和33年（1958年）に建てられた。

制作者は函館出身の彫刻家、梁川剛一である。この像は、文化10年（1813年）、ロシア軍艦ディアナ号が捕らえられていたゴローニン船長を引き取るため、函館に入港した際に立ち会った時の嘉兵衛の姿である。右手に持つのが松前奉行からの諭書、左手に持つのは艦内で正装に着替えていた際に脱いだ衣裳であり、仙台平の袴に白足袋、麻裏草履を用い、帯刀している。

石川啄木居住地跡

石川啄木は、明治40年（1907年）母カツを岩手県渋民村の知人宅に託し、妻節子と長女京子を盛岡の妻の実家に預け、妹光子を連れて函館へ渡った。啄木は、文芸結社「苜蓿社」に入り、雑誌「紅苜蓿」の編集を担当した。一方、生活のために商業会議所の臨時雇いとなり、6月、弥生尋常小学校の代用教員となる。7月、妻子を呼びよせ、転居。翌月、母を迎えた。函館日日新聞の記者となり、生活もようやく安定してきたが、8月25日発生した大火により、学校も新聞社も焼失し、啄木は新たな職を求めて、函館を去り、札幌へ向かった。

函館公園正面

明治12年（1879年）に英国領事ユーステンらの提唱により多くの市民の協力で開園した北海道最初の洋式庭園。桜の名所としても知られている。公園内の市立函館図書館には、啄木の自筆原稿やノート等が、啄木文庫として保管されている。またここには、東京から移された啄木の遺骨が一時安置されていた。

～ 徒 歩 ～

石川啄木一族の墓

啄木が函館に住んだのは、明治40年（1907年）5月から9月までの短い期間だったが、この間の生活は苜蓿社同人らの温かい友情に支えられながら、離散していた家族を呼びよせ、明るく楽しいものであった。「死ぬ時は函館で・・・」と言わせたほど函館の人や風物を愛した啄木であったが、明治45年4月東京において肺結核で亡くなった。27歳。大正2年（1913年）3月、啄木の遺骨は節子未亡人の希望で函館に移されたが、彼女もまた同年5月彼の後を追うかのようにこの世を去った。大正15年8月、義弟にあたる歌人宮崎郁雨や、当時の函館図書館長岡田健蔵の手で現在地に墓碑が建てられ、啄木と妻をはじめ3人の愛児や両親などの遺骨が埋葬され、津軽海峡の潮騒を聞きながら永遠の眠りに就いている。

与謝野寛・晶子の歌碑

昭和31年（1956年）、市立函館図書館の創設者であり館長でもあった岡田健蔵の十三回忌が行われ、その際に彼の雅号にちなんだ図書裡会が結成された。翌32年、同会は棒二森屋百貨店の援助を得て、岡田健蔵を顕彰する意味も込め、昭和6年に来函した与謝野寛・晶子の歌碑を建立した。晶子の短歌中に岡田先生とあるのが、健蔵のことである。また寛の作品として、健蔵の親友である宮崎郁雨の名前が読み込まれた短歌が選ばれた。「浜菊を郁雨が引きて根に添ふる 立待岬の岩かげの土 寛」
「啄木の草稿岡田先生の顔も忘れじ はこだてのこと 晶子」

立待岬

【下 車】

～ バ ス ～

土方歳三最期の地碑

【下 車】

新撰組副長土方歳三は、箱館戦争開戦後はその鬼才を見せつけるかのように連戦連勝。しかし一箇所の戦場で勝ち続けても他所の戦場が負ければ必然的にその箇所は孤立する。土方はやむなく戦場を捨て五稜郭へと退く。そして明治2年5月11日新政府軍が市中に総攻撃をかけたとき、京都時代からの新撰組隊士の戦う弁天台場が孤立。それを援護するために戦場へ出た土方は、一本木関門で壮絶な戦死をとげる。

中島三郎助父子最期の地碑

中島三郎助は浦賀奉行配下の役人であったが、安政2年（1855年）幕府が創設した長崎海軍伝習所の第一期生となり、3年後には軍艦操練所教授方となった。維新後、明治元年（1868年）10月、彼は榎本武揚と行動を共にし、軍艦8隻を率いて北海道に来た。箱館戦争では、五稜郭の前線基地であった千代ヶ岡陣屋の隊長として、浦賀時代の仲間とともに守備についた。新政府軍は箱館を制圧すると、降伏勧告をしたが、中島はそれを謝絶して戦闘を続け、5月16日に長男恒太郎や次男英次郎と共に戦死した。「ほととぎす われも血を吐く 思い哉」という辞世の句を残した。昭和6年に、中島父子を記念して千代ヶ岡陣屋のあったゆかりの地が中島町と名付けられた。

啄木小公園

【下 車】

この辺りは、かつて砂丘があって、ハマナスが咲き乱れていた。啄木が好んで散歩したところであり、歌集「一握の砂」に「砂山の砂に腹這ひ初恋のいたみを遠くおもひ出づる日」と歌われている。詩集「あこがれ」を左手に持ち、もの思いにふける啄木の座像（本郷新作）は、昭和33年に建てられた。隣の石碑は、後年啄木の墓を訪れた詩人西条八十が啄木に捧げた自筆の歌碑である。

古稀庵

◎アンケート・トークイン・まとめ（15:30～16:30）

□ アンケート結果 □

1 港町函館の風土や景観が、文学の世界にどんな影響を与えたとお考えでしょうか。（印象、感想でもかまいません。）

- ・ 亀井勝一郎の生家跡をみて、彼の卓越した文章の神髄を見いだした思いがします。
- ・ 函館は文化的・精神的な、その他何でも受け入れる風土であるような気がした。
- ・ 開港町独特の歴史が強烈な印象を与える。
- ・ エキゾチックな雰囲気最大の魅力。
- ・ 函館特有の風景、おいしい食べ物が文人を集める。
- ・ 異文化の入り込んだ街と寒く厳しい地が、感性の明暗のコントラストをはっきりさせた。
- ・ ホスピタリティあふれる函館人とモダニズムに培われた風土が文学を育てる。
- ・ 異国文化の影響を受けながら発展した街に自由を求めた。
- ・ 異国文化が開港を機に流入し文学の世界にも影響を与えた。

2 開港5都市のひとつであるあなたの市では、開港との係わりなどでどんな作者のどんな作品

（文学以外でもかまいません）がありますか。（日本人、外国人いずれの作者でもかまいません）

- ・ ドナルドキーン・芥川龍之介・現代水道システム（作品名?）・なかにし礼（ながさきぶらぶら節）
- ・ 坂口安吾・新島襄（海外渡航の精神の強さと情熱に感動した）

3 函館ゆかりの作家達の中で、どなたに興味を持ちましたか。またどんな作品を読んだことがありますか。

（etc、石川啄木、亀井勝一郎、久生十蘭、長谷川海太郎、長谷川四郎、佐藤泰志、辻仁成、宇江佐真理）

- ・ 亀井勝一郎 生誕の地から、彼の評価を促進して下さい。
- ・ 辻仁成 年齢が近いのでどんな感受性を持っているか。
- ・ 石川啄木 短い生涯の中で多くの作品を残したことに興味を持った。
- ・ 梁川剛一 少年倶楽部の挿絵を描いていたそうですが函館にゆかりがあるとは知らなかった。
- ・ 宇江佐真理

4 函館ゆかりの作家以外で、函館を舞台にした作品を書いた作家が大勢おりますが、これまで読んだ作品等があればお書き下さい。（etc、司馬遼太郎「菜の花の沖」「燃えよ剣」、五木寛之「海峡物語」、三島由紀夫「夏子の冒険」、水上勉「飢餓海峡」、など）

- ・ 水上勉 「飢餓海峡」 3票 洞爺丸事故と岩内町大火を結び付け、第一級の悲劇的かつ人間の業を感じさせる。
- ・ 司馬遼太郎「菜の花の沖」2票
- ・ 三島由紀夫「夏子の冒険」
- ・ 五木寛之 「海峡物語」
- ・ その他 海峡に関したものに興味があり読んでみたいと思う。

5 第2分科会視察先で印象に残った場所はどこでしょうか。

- ・ 函館区公会堂 8票 洋館なのによそよそしく無い、内装と周辺の景色バルコニーからの港の景色が美しい、入り口の柱が木製であり印象的、他都市の方々が歓声の声を上げた。
- ・ 新島 襄 果敢な進取の気性に感動し出航跡地に胸の血が湧き建った。
- ・ 元町界限
- ・ 文学館の作家の資料の多さに驚いた。
- ・ 啄木一族の墓の景観。

6 函館の文学情報の発信について、希望や注文があればお書きください。

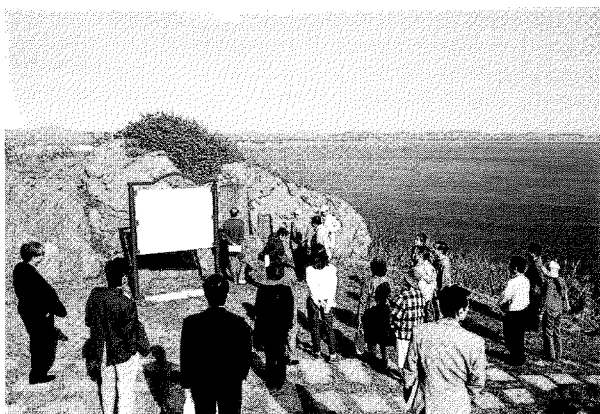
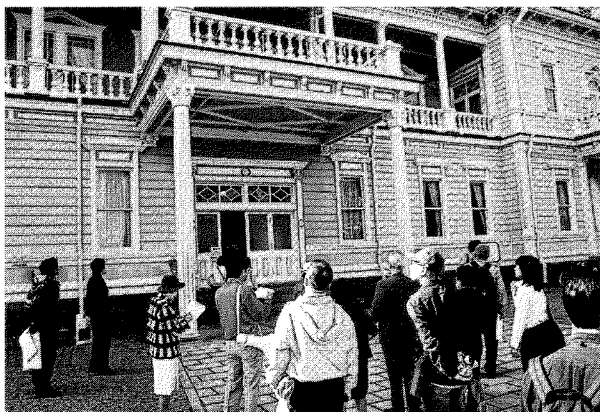
- ・ 旧銀行の金庫に重要なものを展示しているのが面白い。
- ・ 亀井勝一郎の作品、精神性をアピールして欲しい。
- ・ 函館の観光と文学の結びつきの深さに感心した。
- ・ 歌碑・文学碑の環境が貧弱である。
- ・ 函館ゆかりの作家を紹介するホームページの開設を希望。

7 函館の印象は如何でしたか。

- ・日本の近代史～現代史を見事に彩っている都市が、なぜ人口減で悩むのか不思議。
- ・函館ゆかりの文学者がこれ程いるとは思いませんでした。
- ・歴史的建造物が多く函館らしい景観が好きなのでこのままの街にして下さい。
- ・長崎の街に似ている印象を受けました、洋館の利用が良くされている。
- ・小さな街の中に多くの物語があり、穏やかで優しいさを感じました。
- ・海・坂・山と神戸に似ている、良い意味で街並みを守っている印象を受けた。
- ・歴史的建造物が近距離にまとまっている、坂から見る港の風景が大変良い。

8 その他（第2分科会の運営方法等も含めて）

- ・桜井さんの大変丁寧な説明に感謝します、函館以外の方々も感心していたと思います、本当にご苦労様でした。
- ・他都市の方々の函館に対する感想を聞き交流の大切さを痛感しました、守るべきもや考え直さなくてはならない物を見極めていかななくてはと気づかされました。
- ・タウンウォッチングで自分の街を客観的に見直す機会になりました。
- ・パトロンの相馬哲平・宮崎郁雨が新潟出身と聞いて驚いた。





第2分科会

◎タウンウォッチング（9：30～12：00）

集合場所 山麓駐車場（函館山ロープウェイ向かい） タウンガイド 吉村富士夫

◎ディスカッション（13：00～16：30）

□基調講演 倉橋正巳 神戸市アーバンデザイン室長

神戸アーバンデザイン室の倉橋です、宜しくお願い致します。

阪神淡路大震災は、平成7年1月17日の事で、マグニチュード7.2/震度6だと報道がされましたが、調査の結果は震度7という都市直下型大地震の初めてのケースということで、皆さんにも大変ご心配頂きました。皆さんの暖かい御協力・御支援がございまして、神戸市民も必死に努力した結果、ハード面は、元通り以上に復興しているところですが、経済面では、おからの不況も重なりまして、まだ十分な復興を見ていないというのが実態でございます。

神戸市内だけで4,500人の方が尊い命を失い、犠牲になられた訳ですが、神戸以外の阪神間も含めると6,400人の方がお亡くなりになり、神戸市の中で建物の全壊が6万7千棟ともの凄いな数になってます。8階建の市役所の6階部分が圧壊し、その部分には入れない、都市計画局・土木局が入っていて、緊急で動かなければならない部署が全然機能出来ない訳でして、市役所の建物は潰れない様に造らなないと、緊急時に真っ先に動かなければならない市職員が、動くことが出来ないという悔しい思いを我々はしていました。市立の西市民病院は、5階部分が圧壊し、埋め立て地にある中央市民病院は、島に渡る橋が使えず機能を果たせないという様なこともございました。今日は震災後、個性ある地区環境を大事にしながら再生しようという地元組織が活動している地区の御説明をし、御報告に代えたいと思っています。

これは1月17日震災当時の写真です。市内長田区の火事ですが、上から見ただけでは火事だけの様に見えますが、実際は地下のライフラインがズタズタに成ってまして、消防自動車到着しても水が出ない等、消防の職員さんも悔しい思いをしました。全焼が7,000棟位で、六甲の東の副都心と新長田の西の副都心と非常に沢山の被害を受けました。

北野・山本地区は、1868年開港以来居留地を設定する義務が課せられましたが、神戸はその居留地の整備が遅れたので、それを含めた周辺を日本人と外国人と一緒に混じって住むという、雑居地が指定されました。生田川から、宇治川あたりまでと思いますが、その一画の山裾にあるのが北野・山本地区です。南斜面ということで温暖な気候と緑に囲まれ、山の方から海が眺望出来るため、居留地で仕事をし、真っ直ぐ上がって来て住居を構える。この良好な住環境を愛した外国人により、明治20年以降異人館と呼ばれる住宅が沢山集まりました。戦争の時には大きな被害は無く残って来ましたが、昭和30年代にラブホテルが入りだし、40年代にはマンションブームが起こり、不違いな物が出て来だした時に、NHKが昭和52年朝の連続ドラマで風見鳥を放映し全国的に異人館ブームを巻き起こし、その後年間150万人の観光客の方が、北野・山本地区を訪れる様になりました。

この地域は元々閑静な住宅街で、そこに年間150万人の観光客が入って来るという事態を、どのように調和させるかということから、地元住民達により「北野・山本地区をまもり、育てる会」という会が出来ました。6つの自治会と2つの婦人会と商業者の方々が集まり、お互い共存の道を探って行こうと始まった会として、神戸市としてもこの様な町並み景観を残していきたいということで、この一番外のエリアが、神戸市の景観条例に基づく景観形成地域に指定した区域です。その中で洋風の異人館が連続して残っているところ9.3haを伝統的建造物群保存地区に昭和54年に指定し、翌55年には、国が重要伝統的建造物群保存地区に選定しました。

今回の震災では、景観形成地域内における、洋風建築（異人館）約60棟の中で内7棟が解体され、1棟は部材を組み直し別の用途で再使用されてます。（震災時の具体的被害状況をスライドで説明。）

復興へ向けた北野・山本地区をまもり・育てる会の活動ですが、日常の清掃活動の一環としてクリーン作戦を



したり、観光客が煙草のポイ捨てをするということから、ノースモーキングゾーンを地元の方々と作り順番に注意活動をしたり、不法な看板の撤去運動をしたり、おもてなしのための花一杯運動等もしています。この会が震災後の3月16日に総会を開き北野異人館の復興について話し合い、将来的に空き家になった時の運営費と補修費に対する助成をするため、異人館基金を全国に募り現在3,000万程集まっていますが、使用するまでには至ってません。景観形成地域内の異人館の補修は、阪神淡路復興基金という県と神戸市とで拠出した基金で手厚く保護され修復できるようになった事で、今まで手つかずのまま置いてあるという状況です。

北野・山本地区で当時思ったことは、伝統的建造物群保存地区内で伝統的建造物として指定された建築物に対しては優遇されている。万一新たなことが起きた時には、その制度を上手く活用するため日頃から考えておく必要があると思いました。その地区から外れた建物や異人館の内装の被害部位についての補修費は、出なかったという問題点や、漆喰を補修する職人が非常に少なく、技能を伝達することが日頃から必要ではないかという感じがしております。

次に旧居留地地区に移りますが、神戸港開港時に居留地設定の義務が課せられましたが、神戸はフラワーロードの西の一角24haを居留地として設定しました。この都市計画は、イギリスの土木技師ウィリアムハート氏によるもので、広幅員の道路・街路には歩道があり、街路樹やガス灯が整備され、その当時から下水道が整備され、南側の海岸側にはプロムナードも用意されました。敷地割が1,000㎡位の一つのロットが未だに続いていて、この地番は今でも続いています。現在でも通用する都市計画が130年前に造られたことに興味しています。居留地全体では100棟位の建物がありましたが、22棟が建替えを余儀なくされ、震災前は古い建物の醸し出すレトロな感覚を上手く活用しながら、ビルの1階部分には、高級ブティック・飲食店を入れながら新しい商業ゾーンが展開されだしたところで、震災で100棟のうち22棟を建て替えざるを得なくなりました。ばらばらで建替えを行うと個性が発揮出来ない普通の街に成るという危機感から、居留地の企業が集まった「旧居留地連絡協議会」が、震災後自ら復興計画を造り将来イメージを共有していくことに成りました。居留地当時の古い建物で唯一残っていた建物は、居留地15番館で現在重要文化財に指定されてます。この写真の様に潰れたのですが、この部材を再度組み直して復元しようと、軸組の模型を造り検討し、どのような補強をしていくかという会議が開かれ、建物を組み立てる際に免震装置を組み入れることにより、建物全体が免震する形を取り完成した写真ですが、外側の塀も昔の写真から復元され、現在はレストランとして使用されてます。旧居留地復興計画は、旧居留地連絡協議会の復興委員会が震災の年の10月に作りました。



復興計画の中身は賑わいと風格のある中枢業務地区を目指した街並みを造ることです。近代建築が並んでいった地域ですので、開放型の空間を形成するのではなく、道路から見れば囲われた空間を目指し、道路際から1mセットバックした所で壁を立ち上げることに決めることで、中低層部分のスカイラインが揃いました。敷地の中に出来るだけ地域に提供出来る広場を確保して貰い、ポルティコ風の空間広場が沢山で出来ます。居留地では地域防災計画も作り、これに基づき訓練をしております。

最後は酒蔵地域ですが、神戸の中に3つの郷があり東側から、魚崎郷・御影郷・西郷です。この3箇所で沢山の酒造会社が活動しています。震災前の街並みは、大架構の屋根に瓦が載り外壁は焼き羽目板その上部に漆喰が塗ってあり、板の黒と漆喰の白と瓦の黒のコントラストが非常に美しく、外壁に沢山の小窓が着いていて外気を取り入れます。これらの建物は、大架構で工場のため内部に壁がなく屋根が重いため震災で揺られると潰れてしまいます。3つの郷で50棟程の古い蔵が在りましたが、その内の9割方が潰れてしまい壊滅的な打撃を受けました。震災後、酒造会社が再建し資料館として整備された酒蔵もあります。イベントホールとして転用されている事例もあります。震災前から、酒蔵会社30社と行政が一緒になり、酒を活かした街づくりを考える懇談会を行ってましたが、古い建物をそのまま残す街づくりの提案に対して、会社側は実際動いている工場に規制を掛けることには抵抗感が強く、景観形成地域の指定は出来ませんでした。観光客を楽しませ誘導することについては、一体となり酒蔵の道の整備を行って来ましたが、潰れてしまうと、会社の方々も自分達が生きて来たこれまでの街並みがなくなると悲しいことが再認識され、住民と一緒に街づくり協議会を作りました。その一つが「魚崎郷まちなみ委員会」で伝統的で個性ある街並造りを目指す会が震災後立ち上げられました。この委員会は、景観形成市民協定を結び、和風を目指し傾斜屋根に瓦葺き、外壁は和風、道路際に塀を造り、色彩は無彩色か茶系統を使って貰う様に、建築計画段階で事前相談を求めています。

西郷は、震災前から街づくり協議会があり、清潔で住みよく働きやすい街への再生を目指し、酒造会社と住民が一緒になり街づくりを進めています。国道43号から南側ですが、旧西国浜街道という街道を活かしながら街づくりを行うことと、酒造会社が集中しているところを、酒蔵の道として整備をするという提案です。この通りに面したところは全部酒蔵でしたが全部潰れてしまいました。昨日のシンポジウムでも、都市景観とは、外から見た目だけの景観だけではなく、人間の営みすべてがにじみ出て出来る総体としての街であると言えるのではないかと話がありました。やはりこの3地区を見ても、同じことが言えるのではないかとということであり、震災前からのなんらかの形で取り組みがされていれば、震災の時には、その後の立ち上げが非常に速い。震災は避けることが出来ない部分もある訳で復興時に、早く方向性を示すことが非常に大事であり、そのためにも日頃から、日常的な地元の地道な活動が大切だと、改めて認識したというのが今回の災害ではないかと思っています。

◎第2部 パネルディスカッション

□コーディネーター 山内 一 男 函館の歴史的風土を守る会

コーディネーターの山内です、宜しくお願い致します。

先程、神戸の震災後、何らかの街づくりシステムが事前に動いていれば、何かが起こった時には上手に機能するという報告がありました。これからパネリストの方に、街づくりの方向現在置かれている状況、それに伴う災害に対する考え方、街づくりの中でどの様なことが行われているか等の報告を受け、皆さんとお話を進め何か提案が出来ればと考えてます、横浜市さんお願いします。

□パネリスト 菅 孝能 横浜市 山手西洋館ボランティアネットワーク

横浜から参りました菅と申します。

横浜の街も、安政6年今から150年前に開港以来いくつか大きな災害を被り、潜り抜けながら都市構造を整えて来ました。

横浜開港そのものが、日本の安全保障の観点から街の位置を何処にするか決めたという歴史を背負っています。外国人は東海道の神奈川宿に街を造る要求をしてきましたが、幕府は江戸に直結する東海道の治安上・軍事上の危険を回避するため、運河や野毛山を越えないと辿り着けない現在の場所に街を造り、入口に関門番所を置いたため、旧都心の地名は関所の内側にある意味から、関内とも呼ばれています。街の奥に外国人を住ませ周りを日本人街で囲い閉じこめる形が、現在の都市構造に引き継がれています。

慶応2年、開港7年目にふたや火事と呼ばれる大きな火事で、ほとんどが焼き尽くされました。都市の防火のために、彼我公園という外国人と我が国の両方の人達が使える公園を造り、それから港に至る大きな道（日本大通り幅20間）を造る事により、外国人居留地と日本人居留地の間に防火帯を形成し、近代的な都市計画の基が出来上がりました。

大正12年関東大震災に見舞れる訳ですが、被害面積390万坪、市域の80%が燃え、被害世帯も9万5千世帯、その後復興のための都市計画において、現在の街にとっても大きなストックに成っている公園が整備されました。その1つである山下公園は震災により出た瓦礫で港を埋め立てて作った、日本初のウォーターフロント公園と呼ばれています。ここを広場に、復興記念の横浜博覧会が開催され、現在も水に面した細長い公園が、街と港を繋ぐ大切なオープンスペースに成っています。



関東大震災の復興も完全に果たせていない状況の中、太平洋戦争が起こり昭和20年5月に大空襲があり、23回の空襲により、市街地の40%以上40万人の方が被災し、死者・負傷者が2万人という大災害にあい、その後、米軍に接収される状況になりました。空襲で焼かれた部分は、関東大震災よりエリア的には広いのですが、米軍に接収された部分は、旧都市の関内地区ですが、都心部全体が接収されたという状況でした。まだ100%接収解除された訳でなく、市内に幾つかの接収地が残っていて、現在も戦争の傷を引きずり街づくりが行われて来ました。

都市災害の意味からは、南関東・東海沖地震等「震災への備え」が言われており、ポイドマップ作りや市民防災計画を行政が住民と共に行ってます。これらの活動と日常的な街づくりをどう繋げていくかが、今後の課題だと思います。

□コーディネーター：菅さんありがとうございました。彼我公園が造られた経緯は市民からの提案でしたか。

□菅氏：幕府と外国政府間の取り決めです。外国人居留地を造るにあたり、都市基盤の整備をする取り決めが何度か行われています。火事の後に、災害に対して安全な街づくりのため公園・広幅員道路等の防火帯を造りました。

□コーディネーター：ありがとうございました。次は函館市の上戸さんお願いします。

□パネリスト 上戸 慶一 函館市 函館市住宅都市施設公社

函館市の上戸でございます、宜しくお願い致します。

本市は、北海道の南端に位置し、津軽海峡を挟み本州と対峙しており、地形や気候等、北海道の中では恵まれており、多くの市民が良好な環境の中で生活し事業活動を行って来ました。

年間500万人以上の観光客が来函し、全国的にも有名な観光地として発展しています。特に函館山の夜景は世界的にも誇れるものと自負しています。しかし、自然の恵みが豊であるが故、函館の発展の中で街づくりについては必ずしも十分ではなかったという面も在るのではないかと考えています。

函館市の市街地形成の特徴ですが、近隣3町を含んだ1市3町で都市計画を組んでいる状況にあります。街は港を基に発展し、西側に面した湾になっているため、南東風（山背）に強く、山背でも船が泊められる「山背泊まり漁港」とも呼ばれる天然の良港を基に、江戸から明治初期にかけて、1800年代に港の背後に市街地が形成され商業地が出来て、年次を追って全体に市街地が形成されました。発展根拠は、港がある、北海道開発の拠点、北洋漁業、造船業等、産業の発展に伴い市街地が広がっていく状況があります。函館市は独特の地形をしており、東北1方向にしか広がることが出来ない地形の要因があり、中心市街地そのものも移動している状況です。

函館市は独特の地形をしており、東北1方向にしか広がることが出来ない地形の要因があり、中心市街地そのものも移動している状況です。当初は弁天地区が中心地であり、商業地・住宅地が密集しておりだんだん広がり、十字街が次の繁華街、それから駅前に移りこの時代が比較的長く続き、現在は本町・美原に商業地が形成されてます。大都市が発展していく過程の中で、中心市街地が拡大することに伴い副都心が出来、現在の様なロードサイドショップや郊外大型店の立地により、中心市街地が空洞化する一般的な減少が、函館市の場合は、中心市街地その物が都市の発展に伴い移動していくことから、駅前地区は中心市街地の空洞化だけでなく、移動に伴う空洞化という両方の要因があります。

異国情緒のある街並みを積極的に保存していますが、市街地形成の過程で、結果的に取り残された状況が見られます。函館は海に面した岬状の地形で風が強く、発展の経過として港を中心に自然発生的に出来た街、結果的に商人が住む町屋と労働者が住む木造の長屋住宅が非常に密集していた、それが西部地区に残ってますが、火災が起きると燃え広がってしまいます。過去5回の大火があり最大の大火は昭和9年に起きたもので、被害状況が酷く国に復興計画局が臨時に置かれ都市計画が定められました。36mないし55mの広幅員の街路を防火帯として西部地区のいたる所に相当の密度で配置し、復興の区画整理事業で整備されています。

江戸から明治時代にかけて港を中心に急速に発展しましたが、土地が狭く大正9年の当時の人口密度を推測しますと1haあたり160人位、現在の市の人口密度が50人台ですので3倍以上、都市施設の用地を考えても、相当の人口密度で木造住宅に住んでいたと言えます。

西部地区の課題は、昭和30年代に8万8千人居た人口が、平成12年には2万2千人と70%の減少、老年化指数は全市で109が、西部地区では215と高齢化が極めて顕著に表れており、居住傾向も長屋が非常に多く、全市9%に対し西部地区は20%の長屋率を占め、築後40年以上の老朽建築物は全市で10%に対し西部地区は35%になります。

この状況の中、市としては観光資源に成っている西部地区の街並み保存について、昭和63年伝統的建造物群保存地区の指定、平成7年には景観条例を指定する一方、人口回復課題に関しては、西部地区振興策を策定し再開発事業や、民間の方にマンションを建てて貰い、それを借り上げ市営住宅として供給したり、若い御夫婦が、西部地区に住む場合に一定の家賃の助成をするヤングカップル住まいりんぐ事業等に力を入れております。

大火の繰り返しにより出来上がった街が、中心地の移動により残され観光資源になっているが、一方ではこの様な課題があります。最近では景観形成指定建築物でもある「五島軒」が、隣の建物からの類焼で焼けたこともあり、街の保存のみではなく、防災の観点からも街づくり、都市計画に取り組んでいかなければと考えております。

コーディネーター：ありがとうございます。函館は、一応震災には遭っていますが、大火の方が多く昭和9年の大火が一番大きく焼失戸数が2万4千186戸と大変な状況だったことが解ります。それでは、新潟の高橋さん報告をお願いします。

□パネリスト 高橋 照子 新潟市 KMM研究所

カワ・ミチ・マチ研究所の高橋です宜しくお願いします。3人でやっていますが、本業は、新潟市土木企画課で用地の買収を主に担当しています。

新潟という名前からして、海や河から運ばれた砂で出来た土地の上に成ってまして、ほとんどが低い土地で、高い所は砂丘列が3段で、ここにある水害時の写真上に残っている海側の部分が一番高い所です。

慶長10年新潟区、15年新潟町、元和以降は新潟浜村が公称でした。2本の大きな、信濃川・阿賀野川に挟まれているため水害が常習的で、梅雨期の大雨、台風、雪解け水が主な原因です。信濃川の下流部で1600年から360年間に、記録に残る大洪水は94回、文化元年6月の水害の様子を良寛和尚が「耕地も駄目になり、家畜や人さえ流された」と歌に詠んでいます。明治29年7月に分水町横田の堤防が300mに渡り切れ、西蒲原郡一体が、泥沼と化し3ヶ月間飲料水・食糧にも事欠きました。水が在るのに変ですが、新潟で水争いとは、水を奪い合うのではなく、何処でせき止めるかの戦いです。それを解消すべく大河津分水工事が造られました。パナマ運河で唯一の日本人技師青山士、利根川改修工事等の設計を行った宮本武之輔らにより着工されました。山から流れてくる信濃川をそのまま流すと下流の水量が多くなりますので日本海側に10km掘り分水しました。堰の長さが727mで明治42年から大正11年まで工事は続きました。東洋一の自在堰が出来ましたが、また水害で陥没しました。昔の内務省が今度は可動堰を設計し翌年完成しました。完成後は豊かな穀倉地が広がり、お米がおいしいとの評判も頂ける様になりました。

火災も大きな火災が3回あり、明治13年8月上大川前通から出火6,000戸以上新潟町の6割以上の家が焼失しました。明治41年3月古町通から出火、東堀・本町・上大川前の中心部11,982戸が焼失し、同年9月同じく古町通3番から出火、東堀・西堀・営所通・旭町・寄居町の2,076戸が焼けてます。営所通・旭町・寄居町は市役所・警察・学校等の公官署が多くそれらがすべて焼失しました。極めつけは昭和30年10月1日の新潟大火です。

県の教育庁舎から出火、東中通・榎谷小路の繁華街を焼失しました。地震は、昭和39年6月16日の新潟地震マグニチュード7.5、この地震で液状化現象という言葉が浮上しました。浸水被害、石油タンクの炎上、県営住宅倒壊、落橋被害と、新しく出来た昭和大橋がドミノ倒しの様に倒れたのに対し古い万代大橋はちょっとズレただけでした。水道が出なくなり井戸水を使用し七輪で炊事しました。本当に被害があった所は、液状化現象で水が上がり津波が起こり浸水被害が多くありました。

新潟で特徴的なのは、砂の害です。一晩の強風で町が一つ埋まってしまうので、海岸端に松の木を植え現在の姿に成っています、水の都新潟と歌われた所ですが、海と川の恵みを受けながら被害もありました。松林が無ければ水際線が見えて観光になるでしょうが新潟の場合は無理です。

近年の災害は、天然ガスの採取による地盤沈下で、海拔0m地帯も多く広がっています。写真は平成10年8月4日の水害です。都市化によりアスファルト舗装が多くなり、排水しきれず水浸し状態になってます。色々な災害がありました、結構古い建物が残っています。公共建築物というよりは、町屋が残っていて何とかしなければと思いを立ち上げました。都市計画道路に掛かる町屋の保存活動を行っています。

新潟の重要文化財は郷土資料館で、現存する唯一の木造和風の税関（ナマコ壁）があります。これら周辺を歴史を感じられるゾーンにしようと、市では第四銀行住吉町支店も移築し利用する予定です。伝統的な町屋の形態は、通り土間があり、つづき座敷の反対側に中庭があります。町屋を壊す事は、新潟の普通の人の生活を無くす事になるので、小川家は、解体し部材を保管してありますが、資金が集まってません。蔵も沢山ありますが、外壁材に覆われ中にあるため、分かりにくいのが実情です。外装材を剥がし表通り側に出す事により、新潟の売り物に成るはずですが、個人の所有物でも有りまた壁塗職人も少ない等、維持するのが大変だと思ってます。また、高杉家という海鮮問屋の建物も何とかしたいと、民家再生リサイクル協会に加盟の業者と相談してありますが、行政に働きかけが必要とも思います。これらを見てると「残るべくして残った物しか残っていない」訳で、それを上手く残していくしか無いのではないかと思います。

昔からの、都市計画も無い時代からの新潟の街の中を道路が通っているのは、堀を全部埋めたためです。堀というのは、遊水池でもあり延焼遮断帯ではなかったかと思ってます。やはり一本位復元したいと思ってます。

□□-ディネーター：ありがとうございます。水の被害の想像はつきますが、地図でいうと紫の所ですか。

□高橋氏：天然ガスの汲み上げにより地盤沈下した所に水が集まり、紫の部分が地盤の一番低い所ということになります。

□□-ディネーター：わかりました、次に神戸の野澤さん宜しくお願いします。

□パネリスト 野澤 太郎 神戸市 旧居留地連絡協議会

神戸旧居留地の野澤でございます。外国人居留地とは何かからお話をします。

他の開港都市と同様に、幕末の開港と同時に設置されたのが外国人居留地です。約25haの面積でして、明治32年に日本に返還後も神戸の中核部の街として発展してきました。これは、横浜と大変良く似ているのではないかと思います。特に昭和60年頃から、近代建築物により形成されるレトロで落ち着いた街の雰囲気が見直され、大丸を中心としてブティックや飲食店等も出始めて、今までの業務地とは違った、趣を持つ賑わいのある街に成って来ました。旧居留地連絡協議会ですが、旧居留地で事業を営む企業を中心とした集まりで、現在110社が会員です。歴史的に言いますと、第二次大戦後すぐに発足した国際地区共助会を母体としてまして、当初は防犯・福祉等が中心の活動でした。その後異業種間の親睦を図ることを第1目的としてきましたが、昭和58年当地区が神戸市都市景観条例に基づく都市景観形成地域に指定されて、これを機会に会の名前を変更すると共に、景観形成、街並み保存等の街づくりにも取り組み始め、プロムナードコンサート等のイベント、当該地区の清掃活動、街角にプランターボックスの設置、これらの管理等の実践活動の他に、道路に自動販売機を置かずビルの中に入れるというルールも取り決めております。

平成6年、景観形成計画「歴史の流れを未来に引き継ぐ」を主体に策定している際に起きたのが阪神淡路大震災です。旧居留地では106棟のビルの内22棟が撤去を余儀なくされ、この中で居留地時代の建物で唯一残されていた私どもの会社の旧居留地15番館は、明治13年に建てられた国指定の重要文化財でしたが、これを始め海岸ビル大正7年建築、大神ビル大正8年完成、明海ビル大正10年完成という様な、近代的洋風建築も壊された22棟のビルの中にも含まれております。現在では、震災前11棟在った古い建物が、震災後は9棟と2棟減っております、他は大体復興されました。

復興計画、街づくりガイドラインですが、被害が非常に大きかったので、旧居留地連絡協議会では街の復興の在り方を議論し、震災から9ヶ月後の平成7年10月に会員間で合意の取れた、神戸旧居留地復興計画を印刷・発行し、平成9年3月には街づくりガイドラインを策定しております。このような早期の原案作成、合意の形成を可能にしたのは、日頃からのお付き合い、企業間のコミュニケーションが非常に良かったからだと思います。

先程触れましたが、現在までに22棟の撤去建物の内20棟が再建しており、震災に起因する以外のビルが6棟新築されてまして、地区全体では床面積が大きく増加しているのが現状です。更に新しいビルの多くは低層部を店舗や飲食店等にしまして、街を一層賑やかにしております。

連絡委員会の防災委員会ですが、街づくりの議論の中で常に問題になったのは、地域の防災力を高めるという点です。そこで平成8年、我々協議会内に防災委員会を設立し、この点を集中的に議論しました、地域防災の規則とし地域防災の原則としては、自分ないし自らの会社の命・財産は、自らで守ることが震災で得た教訓の一つでした。こういった視点から地域内の各企業が、防災マニュアルを整備状況のアンケートをした結果、大企業ではマニュアルを保有していましたが、その他の企業では未整備と判明したので、防災委員会の第一段階の仕事として、事業所のための防災マニュアル作成の手引き、すなわち防災マニュアルを作るためのマニュアルを作りました。この目次の一つ目は災害時の組織体制、二つ目は情報収集と提供、三つ目は緊急連絡網、四つ目に応急救護・初期消火・避難等、五番目に復旧、六番目に災害予防対策、七番目に防災の訓練・教育というものです。先程の防災計画のマニュアルを作った上で、地域防災計画作りに着手しました。この基本的な視点としての三項目の一つは、非常時の会員間の相互支援です。会社の人命・財産は各社で守ることを前提に、不足する事柄について常日頃から、備えて置くことが大事であり、様々な手段による連絡網の確保が必要です。今年の3月から旧居留地ネットと称して、電子メールによる相互連絡を開始してます。また電話回線が使えない場合の連絡体制、旧居留地隣り組と言ってますが確立しております。

小さな二つ目は、共同備蓄でして各社で色々な備蓄をするには、困難な品物を人命の救助・維持の観点から共同備蓄しようとするもので、百貨店の大丸や駅前の郵便局等にお願いをしております。

二つ目は、非常時の訪問者支援です。先の震災は朝5時頃でしたから、殆ど人が居なかった訳ですが、平日昼間の旧居留地地区には、2万5千人の人が勤務してますし、1万人程の来訪者がいます。毎日働いている人はともかく、1万人の内2千人は遠方からの人々で、帰宅困難になる可能性が高くこの人達に対して、帰宅のための情報提供・行政による避難所紹介と同時に、行政の支援体制が整う最長72時間分の最低限の生活支援を準備しております。神戸市の防災計画においても旧居留地地区一帯は、非常時の防災拠点と期待されておりましたので、この行政の期待にも応える必要があります。具体的に言いますと命を助けるための救護コーナーの開設、重傷者等の搬出手順、また情報を提供するための情報収集手順と情報提供コーナーの開設、更に最高72時間助けるために、雨・露をしのぐ場所とトイレの提供をする一次待避所の確保に地区内各ビルの協力体制を取ることにしております。先の震災でも普通の備えが重要であることを改めて学びました。このためまず地震だけでなく、災害・水害・高潮・ガス爆発・テロ行為等も対象にした、防災訓練・防災講習会の定期的実施を市の消防当局と共に取り組んでおり、その一環として市民救命士の要請にも積極的に取り組んでおります。市民救命士とは、突然の怪我・病気に備え専門家が到着する間の応急手当の方法を、市民に講習し習得した人を認定する神戸市消防局の制度であり、旧居留地では1,000人の習得を目標に現在500人程度が資格を習得しております。

最後に震災を経験し学んだ事は、人命を亡くすような怪我さえしなければ、食糧はなんとかなるということでありまして、この視点から神戸旧居留地地域防災計画も策定しております。以上で終わります。ありがとうございました。

ロパネリスト 岡村則満 長崎市 ミツ山町犬継地区まちづくり協議会

長崎は、台風の影響による水害等の被害に対しての防災計画に取り組んでいますが、昨年から地域の人たちと一緒に街づくりをしています。街づくり課で専門家に対し街づくりの勉強会をしようと、再開の手法等の勉強会を昨年8回行い最後に論文を出してます。

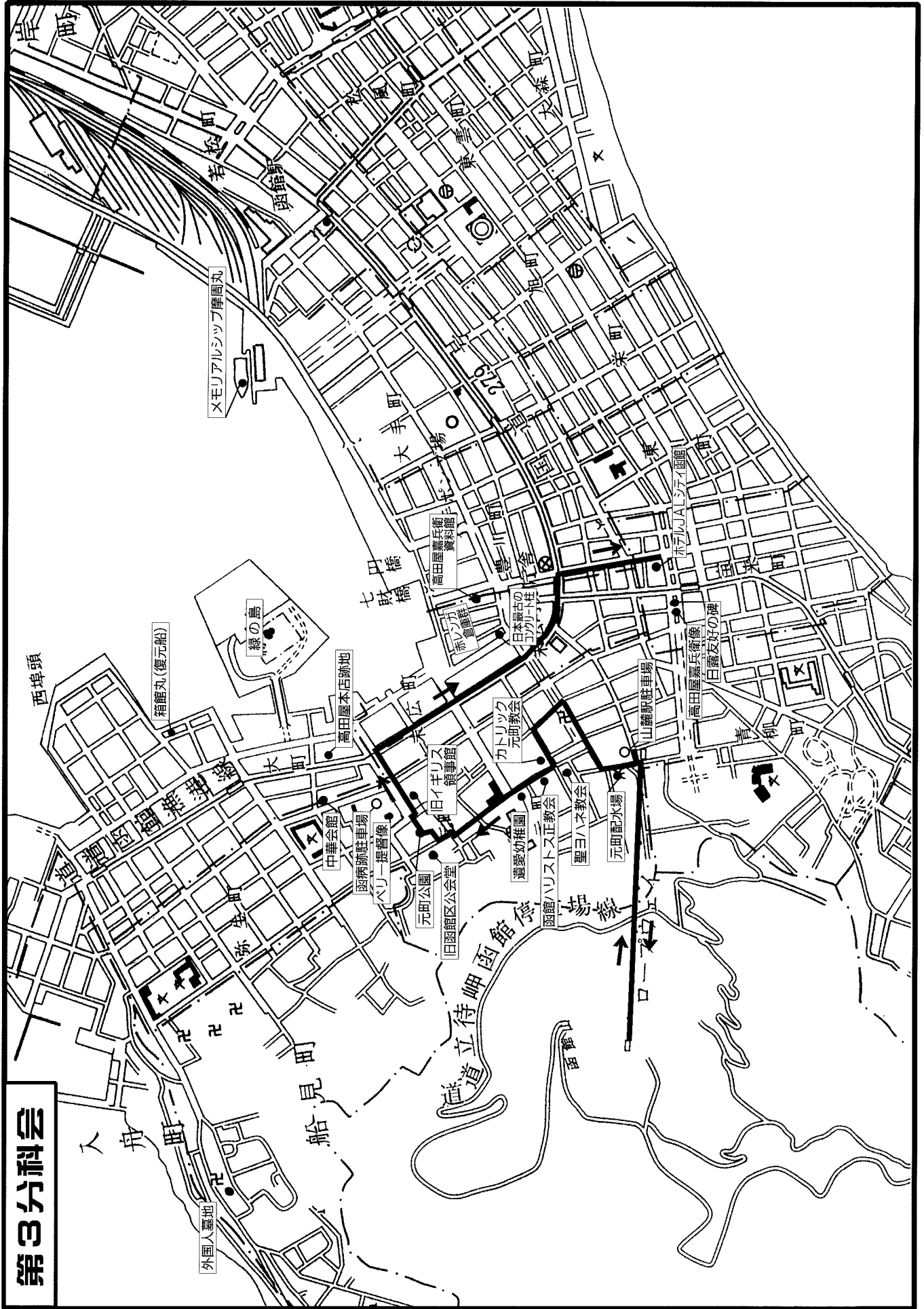
専門家は、建築士・測量士・土木家・不動産鑑定士等の方々に、人口が減っている中で街の活性化、高齢化に進んでいる所に安全な街をどの様に造ろうか等を目的に行ってます。

防災面で言えば、一敷地に一件の建物を造るだけでなく再開発制度を利用し公共空地を確保するとか、去年の新潟の事例の様に20人づつの班に分かれ、指定を受けている街を見て、週に一回の講座の中でグループに分かれシュミレーションをして、道路を入れたり・コミュニティー広場を何処に造るかとか昨年度はしまして、今年はより高度にということで約100人位は出席しており、みなさん今後の勉強になると、この不景気の中毎回出席しております。今年も6回目を終え、講座で融資制度・国の補助等毎回テーマを決めて行政が率先してやっていく様に成りました。自分達がやろうとしても、再開発に携わった一部の人間しか分からなく知らない人が多いため、広くみなさんに知って貰うことで、街づくりの色々な手法を勉強していこうと寛大な施策を行って頂き、我々民間側とすれば、良い講座を開いて頂いたとの気持ちでみなさんおそらく思われているような気がします。都市防災の空地を取るという意味に繋がるではないかと発言させて頂きました。

コーディネーター：ありがとうございました。

皆さんお話になって、21世紀は高齢者問題と福祉の問題。それから防災の問題が取り上げられて行くのだろうと思いますが、街づくりの活動を広く一般の人達も巻き込み、地域独自の関係をキチッと作っていかないと、なかなか事が起きてからでは難しいという感じを話しの中から頂きました。限られた資源しかないので、それを上手に使っていかねばいけないと思ってます。つたないコーディネートで誠に申し訳ありません。これで今日のパネルディスカッション終わりたいと思います。

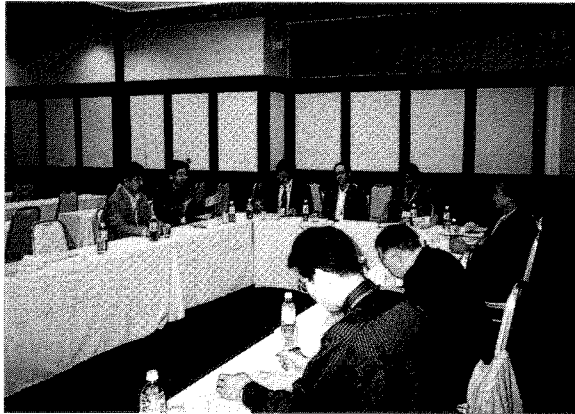




第3分科会

7 各都市代表者会議

日時 ◇ 平成14年10月19日(土) 16:45~17:45
場所 ◇ ホテルJALシティ函館 函館市宝来町22-15
*次期開催都市について *大会宣言の採択 *その他



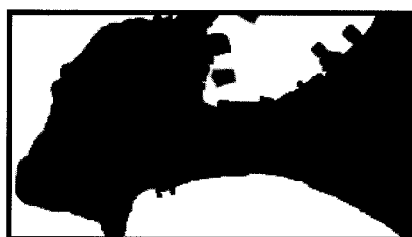
オプションツアー

日時 ◇ 平成14年10月19日(土) 18:00~21:30
場所 ◇ 割烹 富茂登 函館市宝来町9-7
*富茂登~夜景





全体会議 3



■全体会議3■

日 時 ◇ 平成14年10月20日(日) 10:00~12:00

集合場所 ◇ 函館美術館講堂 函館市五稜郭町37-6

【分科会報告】

- 第1分科会 鈴木 克也 (公立はこだて未来大学教授)
百合岡 雅博 (神戸商科大学)
- 第2分科会 八木 敏子 (山手西洋館ボランティアネットワーク)
- 第3分科会 山内 一男 (函館の歴史的風土を守る会)

【各都市代表者会議報告】

山口 裕司 (函館市都市建設部都市デザイン課)

【大会宣言 (大会アピール)】

若山 直 (協同組合十字街商盛会)

【実行委員長謝辞】

小林 敏夫 (開港5都市景観まちづくり会議函館大会副実行委員長)

【次期開催地代表挨拶】

天川 勝三郎 (山手来洋館ボランティアネットワーク)

【大会旗の引き継ぎ・閉会】

【司会】 陳 有 崎 (元町倶楽部)

■ 開会 ■ 司会 陳有崎 元町倶楽部

お早うございます。本日司会を務めます陳と申します。開港5都市景観まちづくり会議函館大会、今日はいよいよ最後ということで、集中した中で総括会議を開きたいということで、よろしくお願ひします。これから分科会ということで報告がありますけれども、大変ご苦労さまでございますが、最後の締めくくりということで行っていきたいと思います。

それでは早速分科会報告からですが、始めたいと思いますが、初日のa a c aのシンポジウム、そして昨日の分科会ということで、まず、第1分科会「北前航路と函館」ということで、コーディネーターの鈴木教授のほうからお願いします。

■ 分科会報告 ■ 第1分科会 鈴木克也 公立はこだて未来大学教授

お早うございます。昨日は町並みのこと、その後へビーなディスカッションをいたしました。ひとつお断りなのですが、第1分科会のテーマが「北前航路と函館」ということで、そのために来たんだというメンバーも多数いたわけですが、しかし、いろんなことを考えまして、函館を事例として、景観、まちづくり、観光のあり方を皆さんで考えていただきたいということで、ウォッチングのときにもアンケート表を配りまして、皆さんにもそのようなテーマでディスカッションをお願いしました。

それともうひとつ、未来大の学生たちが夏休みを利用して港町巡りをやりました。これは、高田屋嘉兵衛がたどった北前船の港町をめぐったんで、その報告は問題提起になるんで、3人の学生たちがプレゼンテーションをまずはいたしました。それをベースにして、皆さんとディスカッションをしたんですが、そのディスカッションはかなりきびしいテーマでありましたが、例えば函館を香港のごとくビルが建ってもいいのでは、というようなご意見と、函館は静かで住民中心に考えるべきだというようなご意見もございましたが、本日はそれらの中の共通的なことをお手元にお配りしました。

その発表については、神戸商科大学の大学院生であった百合岡さんが、私の親友だったんですが、彼に発表をお願いし、実は昨日言ったんですけど、彼は徹夜をしてくれて本日のプレゼンのテーマができましたので、ご報告させてもらいたいと思います。

□神戸商科大学 百合岡 雅博 →資料に基づき発表(資料別添 43~46ページ)

○司会

鈴木先生、百合岡さんどうもありがとうございました。

続きまして第2分科会から発表してもらいます。テーマは「函館を愛した芸術家たち」。

横浜から、山手西洋館ボランティアネットワークの八木さんお願いします。

第2分科会 八木 敏子 山手西洋館ボランティアネットワーク

横浜の八木敏子と申します。どうぞよろしくお願ひします。昨日はお天気もようございまして、けっこうたくさん廻りました。ちゃんとした説明が申し上げられるかどうかわかりませんが、スカートとスピーチは短いほどいいという先人の教えに習いまして、今日はスカートは短いのを履いてまいりました。スピーチのほうも短く単純にお話したいと思います。

私どもは、とにかく3時ぐらいまですと歩き続けました。途中、ごはんを食べてからも。それで、お天気もようございまして、そのことが、いろんな経験となりまして、直接ではないんですけど文学人がどういうふうに、函館でどうやって作品を作ったかということが、私たちの間では妙にこれだこれだと思って勝手に決めて、今頃どこか天国か地獄で勝手にやっているとされているかもしれませんけれど…このテーマで班を3つに分けて、1つは「文学舞台としての函館」、2つ目は「開港場函館と文学」、それから3つ目は「作家たちにとっての函館」というテーマにしたんですけど、結局そのテーマは一緒くたみたいで、みんな勝手に同じように考えたことを言い合いました。それで簡単に申しますと、啄木を中心にやって、それが一番長い論議でございました。啄木について、かなりいろいろ推し進めていったかたちになったと思います。それで、啄木が函館に4か月しかいなかったのに、どうしてこれだけ多くの作品を残したのだろうか。それから、ここを終焉の地と決めたその辺は一体何だったのだろうか、ということがかなりのディスカッションとなりました。それでまずはよそ者から話をしようということで、いろいろ話が出たんですけど、新潟とか、長崎とか、神戸とか。それで結局、海が両方にありまして、立待岬まで行きましたら、両方海でしかも昨日はお天気がよかったものですから、はるかに本州が眺められまして、そして、空もとてもきれいで空と海が一体になって自然の中に溶け込んでいくような感じで、そういうのがみんなの胸の中にありました。

そういう自然の中で、文学がけっこう作られたということでございますけれど、文学者たちがほとんど長くは函館にいたわけではございませんで、生まれ育った方も、そう長くはいらしたようではございませんが、だからちょっとの間にそれだけのものを生む要素があったということではないかと思ひます。

そして、函館市というところは、函館というよりもだいたい北海道は、本州から移ってきた人が多いわけで、そうすると外から来た人を受け入れられやすい体質があるのではないかと、だからいろんな文学者も、流れ流れて来た人も、函館では何となく受け入れられたのではないかと、それに、そういうインターナショナル的な部分が非常にあると思います。

話が अच्छこっちいって変なんですけれど、亀井勝一郎の生家の側にお寺がありました。それから教会がいくつかありまして、それがロシアであり、フランスであり、イギリスであり、アメリカである。

そんないろんな違った宗教が混在している、そこに育ったり、住んでいると、私にもそれに似た経験がございますが、いろんな宗教の中に入ると、あまり閉鎖的にならずに、結局、宗教ってというのはどれだって全部元は同じではないかと、表現が違っただけで結局は同じなのではないかという思いが強いんですが、そういうことも函館のひとつの気質の中にあるのではないかと話になりました。それから、外から来た人たちというのは、函館にははっきりいって成功して来るということは少ないですから、その人たちの心の中にいろんな悲しみやら苦しみやらあると思いますけれど、それを自然にあたたかく受け入れてもらえたということが、逆にいい作品を生んだのではないかとこのように結論づけました。それから、歴史的建造物も結構ございますけれども、それを各都市では、博物館とか、公共のものになっているところが多いですけれども、函館は民間が大変いろいろな面で利用しているところが感心するという話でそれが各都市から来ました。ひとつ不思議なのは、和洋折衷の建物が、下は格子の日本家屋で2階が洋館という、これは私も知らないのですけれど、他の都市ではあまり見かけたことのないように思います。和洋折衷でも右と左に分かれて2階建てになっているものはございますけれど、下が格子で上が西洋館と、なぜそういうふうになったんだろうと聞いたんですけれど、函館の人もあまり定かには答えられませんでした。まあ、歴史の積み重ねがこういう文化にも残っているんだろうということになりました。まあ、ずっと昨日まいりまして少し夕方になりかけた頃に、啄木のお墓のところ、海辺のところまいりました。朝一番でなかったのが非常によかったということになったんですけれど、「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたわむる」、この東海とはどこだろうどこだろうということが、疑問がありますし、いろんな説もあるらしいでございます。それでどこなんでしょうね、なんていう話をしてあそこの場所に夕方行きましたら、その瞬間にここだと思ったんです。それはなんか理屈もなにもないのですけれども、あそこの海辺を見ると、やっぱりあの海なんだろうと思いますけれど、夕方に見てますと、啄木がいろんな生活も苦しかったし、あの人の文学を見て、死後にしか認められることがなかったということですから、やっぱり彼の中に悲しみみたいなものが、あの歌に出てて、そして蟹とたわむれるということで、あの蟹は何だったという話も出て、毛蟹じゃないか、毛蟹とたわむれたりするかなとか、結局小さいそれこそ小さい蟹だと思えますが、それがどうしても、あの場所に行ってみるとやっぱりそこが東海なんだと、みんなであなづきあったということでございました。そのぐらいのことでございます、ちょっとスカートが少し長くなったようでございますので、ちゃんとうまくまとまったかどうかわかりませんが、一応概略としてそういうことございました。

ありがとうございました。

○ 司 会

八木さんどうもありがとうございました。私も第2分科会に参加させていただきました。また非常に文学ということで、情緒的な部分のご意見でございまして、まとめにくい部分をひとつまとめていただいたと思うんですね、非常に感心しております。本当にありがとうございました。

そういう情緒的な部分というのは各都市においてもどっかつながる部分があるものだと思いますので、いま八木さんがおっしゃったように、立待岬に行けばですね、あらたな感動を呼び起こすということで、私も久々に立待岬になつかしく行ったんですけれども、ちょうど海岸線に西日が差して深呼吸するといいい気分になったという気がして、それだけでも参加してよかったなと思っています。本当にどうもありがとうございました。

続きまして、最後になりますが、第3分科会「自然と都市防災」ということで、地元からです。

函館の歴史的風土を守る会の山内一男さんから報告してもらいます。

第3分科会 山内一男

函館の歴史的風土を守る会

最後なんですけれど、非常にかたいテーマが「自然と都市防災」ということで第3分科会が始まったわけなんですけれども、5都市から様々な災害をくぐりぬけてきたという報告、そして街がどうやって復興してきたかという歴史が報告されました。函館は大火がありまして、そういう大火の歴史、新潟は水害、砂地ですから水害の報告、横浜は関東大震災が非常に大きく、その後も戦災という報告があり、神戸は皆さんご存知のように阪神淡路大震災について報告、長崎は台風と水害ということで、これらの報告の中で、これらの災害というものが都市計画の中で、あるいは基本計画の中で、防災計画が取り込まれてきたということがあり、それは神戸の地震拡大による防火帯の設置ですとか、横浜では公園あるいはオープンスペースを取り入れてやってる、それが歴史的部分がある。

それと建物の耐火だとか、あるいは耐震だとかという効果がそういう教訓のもとにできあがってきた。その報告の中で思ったことは、神戸の復興への取り組みの早さ、それは1月に震災にあわれて、防災計画を作ったのがその年の10月に出来上がって、非常に早く出来た。それともう一つは、長崎がさほど被害が多くなかったわけですね。それはどういうことかということが非常に興味がありまして、それは大きくかいつまんでいいますと、日頃のコミュニケーションの仕方が深かったり、あるいは互助的習慣によって可能だったのではないかという報告を受けまして防災を制御するソフト面を見ることが出来ました。



それから、何か提案しなければならないということになりまして、これからの21世紀というのは人口の増加というのはみられない、逆に減少に向かうということで、いままで20世紀に行われていた市街地の再開発事業というのは多くは望めなくなる。

では、どうすれば災害に対して、街がどういうふうにしていくかということですが、いままである街の資源というものを大切に、そういうものを改善あるいは更新していくという新しい都市社会の構築が必要なんだろうと考えたと思います。

その中で学校施設ですとか、公共施設の防災拠点化というものもあるわけですが、一時的な避難場所であったり、そういうものにこれからは力を入れていかなければいけない。それと日常的なまちづくり活動への市民の参加ということによっても防災的なことに街の諸々の補助的な避難に対しても充分対応していくことができる。それと専門家にいろいろ安全な街に対する検討・企画をしていただいて、市または住民にとって日常的な危機管理といいますが、そういうものに目を向ける必要があるのではないかという話し合いがなされました。

いずれにしても、様々な都市にはそれぞれ地域の特性があるわけですので、それにあった仕組みづくりに取り組むことが必要ではないかという、そのような討議・提案がなされました。

○司会

山内さん、どうもありがとうございました。

時間があるので、ほかの分科会に出ていない人で何か聞きたいことがあれば。

○分科会への意見等

□函館の歴史的風土を守る会 山内一男

八木さんの話に対して2点ありまして、まず一つは蟹の話。函館には、函館湾側と大森浜側と蟹が2種類います。函館湾側のほうには毛蟹の種類に似たくり蟹というのがありますが、これはおそらく違うと思います。そして、大森浜側の蟹はわたり蟹で、我々捕るときには、網を投げまして捕りますが、おそらく蟹とたわむれたのは、わたり蟹だと思えます。それと上下和洋折衷の建物というのがあるので、これは推測の域ではないんですけど、おそらく函館の町の景観、町並みを育てたものの考え方、先人達の知恵だとすれば、2階建ての家というのは、当時少なかったと思えます。そうすると平屋建ての家というのは前からずっとありますから、それは和風の家ということになると思うんですが、ところが、洋館というものができあがりますと、それは2階建てのもの、それは商店とか、外国から函館の港に自分の船がいつ入ってくるのかという、情報的にはなかなか入ってきませんから、傾斜地の上で自分の会社の船が入ってくるのを常に見ていなければならない。そういうものがあるんだと思えます。そうすると当然、洋館の店みたいのになってきます。

そうするとおそらく町並みに合わせたかたちに、1階の和風の中に2階建ての洋館みたいなのがあると、やっぱり自分たちも2階にこの見下ろしたいというものが出てくると、合わせなければいけない。なんか新しいもの好きの、いわゆる函館というのは世襲性みたいなものが強くて、コンプレックスみたいなものが2階に出たのではないかと思います。それぞれが新築で造ったものなのか、増築で造ったものなのかというものは古い建物を解体する時に、柱だとか梁だとかを見ればおそらく出てくると思うんですが、なかなかそこまで研究がいてない状況です。あくまでも推論ですけどもそんな気がします。

□山手西洋館ボランティアネットワーク 八木敏子

ありがとうございます。考えると横浜では船が入ってくるのをウォッチングしたなんて話は私はあまり知らないです。どうでしょうか。横浜でありますでしょうか。(長崎はありますね。)

□横浜シティガイド協会 嶋田昌子

横浜の嶋田でございます。実は山手の洋館が、山手の本通りに対して港を見る側と本牧を見る側とに大きく展開されていて、港を見る側では北側にあたるのが港の見えるほうで、傾斜地がこう下がってますね。こうした場合に港を見下ろすときにその北側に結構大きな窓があります。その辺が日本人とちょっと違うのかなと思うんですが、日本人は南側に居間とかそういうのを置きますね。しかし北側まで居間を通して、その居間からのご馳走がある意味では、港が見える感じだと思うんですが、一応そういうことが考えられるのではないかと思います。新潟はどうでしょうか。新潟は平地ですからね。神戸は。

□神戸南京町景観形成協議会 角本 稔

神戸の角本でございます。昨日は第1分科会でちょっと摩周丸でいろいろ提言させていただきました。まあ、展示内容は非常に素晴らしいと思います。本当にあの展示には感動いたしました。さて、港を見るという話なんですけど、神戸の場合にも現存しております。明治時代からの建物、植民地風コロニアル様式の建物というのはほとんど2階建て造りでして、居留地内にあります。野澤さんの15番館なども2階から見下ろしたと思うんですが、あと異人館街にあります建物もみな2階建てでして、全部2階のほうのベランダから港を見ていたと思うんですが、やっぱり六甲おろしが冷たく寒いものですから、2階のほうはやはりその後窓ガラス、ガラスが入りまして、ですからも2階のほうはガラス窓に交換しております。

それから異人館だけでなく新港突堤とかハーバーランドなどにありました。倉庫の上にも、灯ろうがありまして、まず新港特定が大型倉庫の上にも灯ろうがあります。港を見まして、自分のところの船がいつ入ってくるか、また出航の時とか見る、そういったものがありまして、またハーバーランドの大型倉庫の上にも、それが残っております。いまは使われておりませんが、警備のためとか、防火のためとかいうのもあったようです。

□函館の歴史的風土を守る会 石井 満

函館の石井なんですけれど、山内さんのほうからの話なんですけれど、実はつい9月に大森浜の掃除をしたときにですね、もくず蟹というのが住んでおりまして、それは川蟹なんですけれども、ちょうど大森浜の海岸を掃除したときに、その付近であったら9センチくらいのはさみに毛のついた蟹がおりまして、私もそれをとって遊んだものですから、時期になりますと来ているのではないかと、それはいることは確かなものですから、そういうふうなのが若いときにはもっと小さいものですから、そんなのもひとつの種類の蟹かというときには、その蟹も入れて検討していただければと思います。よろしくお願いします。

○司 会

そろそろ分科会をめぐった議論はこのぐらいにしておきまして、代表者会議報告のほうに移らせていただきます。

9-2 各都市代表者会議報告

函館市都市建設部都市デザイン課 山口 裕 司

ただいまご紹介いただきました山口です。大会3日目ということで大変お疲れのこととは思いますが、もうしばらくご辛抱願います。私からは、昨日ホテルJALシティで行われました各都市代表者会議について、実行委員会事務局としてご報告させていただきます。

この会議の議題としては2つございまして、1つは函館大会アピールについてございまして、函館大会アピールにつきましては、5都市の代表全員の賛同をいただきまして、原案の通り決定しておりまして、この後発表されますのでお聞きください。2つ目は、来年度の開催都市の決定についてございまして、来年度の開催都市につきましては、これまでの開催順序を踏まえまして、日本列島を時計回りに回りまして、横浜市に決定いたしました。開催月日につきましては横浜市にお任せすることとし、後日横浜市よりご案内がありますのでよろしくお願いいたします。また、昨日の代表者会議では、来年の横浜市で2周年目が終わることからその後の予定について話し合われまして、神戸市から順番としては再来年度の平成16年度は神戸市の予定であるが、次の平成17年は神戸震災から10年の節目となり、神戸市上げての復興イベントが予定されており、できればその復興イベントと合わせて開港5都市景観まちづくり会議を開催したいとの意向が示され、5都市の代表全員の賛同により、平成17年度に神戸大会を開催するとの確認がされました。また、その際の1年中断する平成16年度は各都市代表者会議だけは開催することとし、開催地等の詳細については、来年度の横浜大会における各都市代表者会議で決定することが確認されました。以上が代表者会議の議題の内容でございまして、これで報告を終わります。

9-3 大会宣言(大会アピール)

→42ページのとおり
協同組合十字街商盛会 若山 直

9-4 実行委員長謝辞

開港5都市景観まちづくり会議函館大会副委員長 小林 敏 夫

どうも皆さんお早うございます。一昨日から始まりました第9回開港5都市景観まちづくり会議、皆さんの協力、また市の協力で成功裡に終われることを大変うれしく思っております。

また、昨日の3部門にわたる分科会で、大変貴重な函館市に対する提言またご意見をいただきまして、我々函館市に住むものにとりましてこれからのまちづくりに非常に貴重なものになるのではないかと感じております。ありがとうございました。また、昨日は夜、函館山に行きまして、また大門、本町あたりに流れたというような話しも聞いております。大変函館の経済に活性化をいただきまして誠にありがとうございました。

第10回のこの会議、来年は横浜でございますけれど、函館からも大勢参りたいと思っております。本当に3日間ありがとうございました。

天川でございます。大変に充実した3日間をすごさせていただきまして、函館市の皆様には大変感謝しております。ありがとうございます。

第10回は横浜ということに決まりましたのでできるだけ充実した会をやりたいと思ってますし、それから、時期的にもあまり寒いか暑いとかいうのはできるだけ避けて、いい気候のときにやりたいというふうに思います。ただ、横浜はいま、昨日もちょうとご紹介したんですが、いろいろと街の様相を変えろというような様子が港の周辺に残っています。その辺が、あるいはできてからやったほうがいいんじゃないかなあという気がしております。

それから、地下鉄の開始が15年度末になりそうな様子でございます。できれば、その地下鉄にも皆さんにお乗りいただきたいと思っておりますので、そうなりますと16年度になってから開催ということで、その辺は行政のほうと相談してからということになるのかなと思っております。できましたならば、開催日を決めたら、3ヶ月前くらいにはお知らせしたいと思っております。もうちょっと早いほうがよろしければ

(早いほうがよい)

それでは、半年前ということでもよろしくお願いたします。

大会旗の引き継ぎ・閉会 9-6

○司会

それでは大会旗のほうを函館から横浜のほうに引き継ぎたいと思っております。セレモニーということになりますので、よろしくお願いたします。

(大会旗引き継ぎ)

それでは、ちょっと時間がありますので、デザインをした新潟の小柳さんに旗の解説などいかがでしょうか。

口にいがた花絵プロジェクト 小柳行弘

新潟の小柳です。このデザインは1年半前につくったもので、自分の中でもう解決してまして、解説すると言われますと、昨日も私、これは何かと言われまして、これは・・・忘れたということなんですが、もう一度記憶を回想してみると、太陽とか、方位磁石という考えでして、港ということで方位、そういうかたちで、開港5都市のイメージになっています。昨年、インスピレーションで突然とつくったような感じなんですけど・・・

あと、5つの三角が帆ですよね。帆が5つ、1つじゃだめだと、5つあって初めてひとつの船が進んでいくと考えまして、風が吹いてちょっとたなびいていると、そういう形で考えたと思っております。

あと色ですけれど、基本的にはこのカラーで合っているんじゃないかなあと思ったんですが、自分自身は考えてません。考えてませんというのは、どうでもいいということではなくて、各5都市がいろんな色に変わっていくというようなかたちで、普通はこういうのは決めるんですけど、決めてません。

だから、いろんな色に染まりながら前に進んでいるような、自由な開港5都市でいきたいなと、5つの港が手を合わせて一緒に前に進んでいこうということで、日本の未来がここにあるんじゃないかなあということを考えてと思っております。



○司会

小柳さんどうもありがとうございました。今回の函館大会、ウェルカムパーティでも小柳さんが挨拶して、函館にはパチンコ屋が多い、看板が多いということで、最後は旗の解説ということで、なんか小柳さんに始まり小柳さんに終わる、そういう気もいたしますけれども、



こういうことで、和やかなうちにこの会議を閉めたいと思っております。来年度、横浜でまた再会することを皆さんで約束しまして、まあ、約束してもいろいろあるとは思いますが、函館がですね、毎年参加者が少ないということで、ご協力したいというのがありますけれども、また横浜で是非再会することを約束しまして終わりたいと思っております。本当に3日間ご苦労様でした。

どうぞ気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。

開港5都市景観まちづくり会議函館大会

大会アピール

開港以来148年間、巴型の懐に抱かれた歴史のひだを
刻んできた港町函館

日本海と太平洋をつなぐ津軽海峡を越え
北国からのメッセージ いいべや「港・まち並み」考えよう
を基本テーマとして、5つの都市が熱い言葉で語り合い
歴史の内容とその価値を学び互いに知らせ合い、
共に学び決意を固めあうためここに集まりました。

環境、経済をはじめとして人々の生き方にもグローバル化
あるいはボーダーレス化の高波が押し寄せてきている現在、
海洋国日本の港町の活力がいまや遠く、他国へ
去ろうとしている。

海外の諸文化とも融合しつつ、再度、独創的發展を望む
我々に港町は、歴史的な開港によって成り立ってきた5つ
の都市の知恵と協働により自立的かつ個性のある町づくり
を推進する大きな力を得たことを確信する。

第9回大会において「聞いて、知って、語ってそして学んだ」
ことを実践し、後世へと引き継ぐ魅力ある美しい景観都市
を形成するため互いに努力していくことを確認しここに
宣言する。

再び会することを約して

2002年10月20日

開港5都市景観まちづくり会議函館大会

開港5都市景観街づくり会議

—2002年10月19日—

第1分科会：テーマ北前航路と函館

コーディネーター：鈴木克也氏（公立はこだて未来大学）

アドバイザー：星野裕氏、大井清二氏

函館を事例にしながら景観、街づくり、観光のあり方などをディスカッションをする

港町を巡ってきたときの感想

発表：公立はこだて未来大学

システム情報部複雑系化学科 3年 大久保 彰之



第1分科会では、午前中に函館の景観、街づくりの現状を視察、参加者のアンケートを収集した。
ディスカッションに先立ち、公立はこだて未来大学学生の大久保さんをはじめ、桃野さん、北野さんが開港5都市を含め、北前航路を旅した感想を報告し、それらをもとに議論を開始した。

大久保さんの感想の整理：KEY WORDS：観光・景観・貿易

- ◎ 親水地域・ウォーターフロントをもとに活性化を考える
- ◎ 港町と景観：海・山・街が一体となっている、多面的なビューポイントがある
- ◎ イベント：市民と観光客がともに楽しめるイベントの必要性
- ◎ 船：函館、新潟、横浜にあるがうまく活かされていない
- ◎ 観光客を受け入れる準備ができていないのではないか

議論の結果、以下の提言を整理した

2

景観全体

函館の景観・街づくりの印象



- ◎ 坂道がたくさんあり、景観も非常に良い。大正ロマンを感じさせる歴史的建造物がたくさんあり多数の観光資源を保有している。
- ◎ 居ながらにして対岸が見えるという眺望の良さ。

反面

- ◎ 元気がない・活気がない、海辺の部分が寂しい、船も活かされていない。
- ◎ 観光客向けにつくられすぎている。必然性がないものがつくられているような街の雰囲気になっている。
- ◎ 全体的にシンボルがなく雑然としていて、色彩のセンスが悪い印象を受けた。
- ◎ 観光スポットに不法駐車が多く残念。
- ◎ 個人の努力で観光資源のハード面・ソフト面が整備・維持されている。

全体眺望は良いが、ソフト面では課題がある
景観には、色彩・音が含まれており、多面的な角度から配慮するべきである

3

「歩く」というKEY WORD

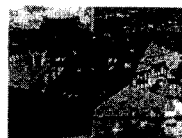


- ◎ 現在の函館は、街が小さく「3時間観光」といわれるくらい短期滞在型の街である。
 - ◎ せっかく来たからすべて見たいと思っても、時間もないので、歩いて街を見るのではなく、タクシーでゆっくり走って観光をする。
 - ◎ しかし、ゆっくり歩いて見ればいろいろなものが見えてきて楽しいので、歩いてゆっくりと楽しめる街づくりをしなければならない。これで、人・街が変わる。小さい街を強みにするための差別化が必要。
 - ◎ いろいろな場所に行って体験できることが観光体験、わかってもらえるようにすることが大切。
 - ◎ 人の流れをつくるルートづくりが必要。
- 一方
- ◎ 空路から陸路へ旅行の形態が変わってくるなど、函館だけで考えると視点が狭くなるので、広い視野で道南の観光資源を取り込む。

少なくとも中心地については「歩いてくれる」街づくりをしなければならない

4

ウォーターフロントと摩周丸



- ③ 陸と海との観光のバランスがとれてない。
- ③ 金森倉庫群と駅前のウォーターフロントとの関連づけが悪い。
- ③ はじめてきた観光客にはどうなっているのかわからない。
- ③ 動いている船が見たい。

摩周丸について

- ③ 駅からのアクセス道路が余りに悪い。
- ③ 港の象徴として係留されているがさび付いている。
- ③ 存在感を示すことが大切。
- ③ 船の展示内容はしっかりしているが、解説が少ない。

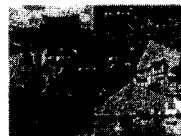
アイデア

シルバーボランティアで実際の体験者に説明してもらう
定刻に汽笛を鳴らす
宿泊施設・結婚式場にする
汽車からレールを伸ばす
順路・モデルルーム、歩きやすい状態をつくる など

港町らしさをだすために、ウォーターフロントのエリアとしての整備が必要

5

イベント



- ③ 函館には、イカやカニなどの買い物や食べ物、夜景だけがあるわけではないが、外部には単調な宣伝ばかりで、他にある多くのものの情報が伝わっていない。
- ③ イベント例：港まつり、夜景の日、クリスマスファンタジー
- ③ 夏の観光は大丈夫。冬のイベントが成功すれば、より成功するのではないか。
- ③ 冬場対策のアイデア、中国・台湾など雪の降らない国々からの観光客に対して、「北国函館」の冬を観光資源とし、冬に感動してもらう。
- ③ 函館の人は旺盛なホスピタリティマインドを持っているが、それを現するのが苦手である。
- ③ 市民が大切で、街が好きなら、自らがイベントに参加する要素が必要となる。
- ③ 生活者のための整備が行われていない。

住民・産業・観光客・学校が出会える場づくり
市民も楽しめるイベントが必要である

6

ストーリー性



- ➡ この地域には、高田屋嘉兵衛、石川啄木、土方歳三、新島譲など歴史上誇るべき人がいるが、ストーリー性は伝わっていない。
- ➡ 高田屋嘉兵衛：司馬遼太郎が一番すすめたい人、江戸時代にすでに合理的精神を持っていた人：「港町文化の原点」
- ➡ 高田屋嘉兵衛の史跡は存在するが、バラバラで感動することがない。
- ➡ 市民が高田屋嘉兵衛のことをあまり知らない。

観光客に強い印象を与えるには、
歴史に裏付けられたストーリーを感じられるようにする必要がある

7

港町ネットワークをつくる



- ➡ 開港5都市の共通ネットワークが必要。
- ➡ 港町の原点を共有する：「勢い」、「オープン性」(異質なものを受け入れる)、「好奇心」(新しいものを受け入れる)
- ➡ 港町の心意気：古いものを守りながらも、一方では成功しなくても何かやるべきである。

開港5都市をネットワーク化して、港町情報を共有する必要がある

8

開港5都市景観まちづくり会議規約

(名 称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」（以下「景観まちづくり会議」という）と称する。

(目 的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活 動)

第3条 景観まちづくりは、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

(ア) 情報の交換

(イ) 共通の課題に対する調査研究

(ウ) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組 織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを实践する市民団体等で構成する。

2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会 議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会及び代表者会議とする。

2 定期大会は、原則として年1回会長が召集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じて召集することができる。

(役 員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会またはまちづくりを实践する市民団体等の代表者をもって充てる。

3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。

4 役員任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会またはまちづくりを实践する市民団体等に置く。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

附 則

本規約は、平成11年10月11日から施行する。

開港5都市景観まちづくり会議の開催経過（参考掲載）

- 1993年（平成5年）8月
第1回神戸大会 テーマ「市民主導のまちなみ・まちづくり」
- 1994年（平成6年）10月
第2回長崎大会 テーマ「市民主導のまちなみ・まちづくり」
- 1996年（平成8年）2月
第3回新潟大会 テーマ「港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう」
- 1996年（平成8年）10月
第4回函館大会 テーマ「北の開港都市に民の系譜をさぐる」
- 1997年（平成9年）10月
第5回横浜大会 テーマ「開港都市の伝統・文化を活かした街づくり」
- 1998年（平成10年）
中断（神戸大会の代表者会議）
- 1999年（平成11年）10月
第6回神戸大会 テーマ「開港都市の未来（あした）を探る」
- 2000年（平成12年）10月
第7回長崎大会 テーマ「開港都市の遺伝子を伝える」
- 2001年（平成13年）8月
第8回新潟大会 テーマ「水都にいがた夏！！ようこそ」
- 2002年（平成14年）10月
第9回函館大会 テーマ「北国からのメッセージいいべや「港・まち並み」考えよう」

開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員会規約

(名称)

第1条 本会の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議函館大会実行委員会」（以下「実行委員会」という）と称する。

(目的および事業)

第2条 実行委員会は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸および長崎の5都市（以下「開港5都市」という）の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切にし、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資するために、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 開港5都市景観まちづくり会議函館大会の企画、運営
- (2) その他目的達成に必要な事業

(組織)

第3条 実行委員会は、まちづくりを实践する市民団体等の代表者等で構成する。

- 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(実行委員長および副委員長)

第4条 実行委員会に実行委員長1人および副委員長若干名を置く。

- 2 実行委員長、副委員長は、実行委員の互選によって定める。
- 3 実行委員長は、会務を総理し、実行委員会を代表する。
- 4 副委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 実行委員会の会議は、実行委員長が召集する。

- 2 実行委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 実行委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、実行委員長の決するところによる。

(監事)

第6条 実行委員会の財務を監査するために監事を置く。

- 2 監事は、会長が委嘱する。

(事務局)

第7条 実行委員会の事務局を函館市都市建設部都市デザイン課に置く。

(予算等)

第8条 実行委員会の予算は、負担金、協賛金、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

(委任)

第9条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、実行委員長が実行委員会に諮って定める。

附 則

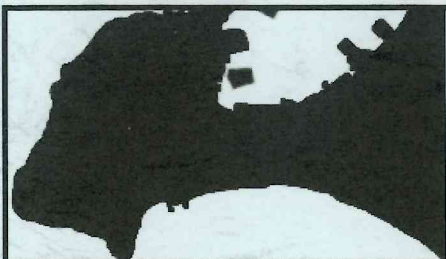
- 1 この規約は、平成14年2月25日から施行する。
- 2 この規約は、事業終了後4ヶ月をもって廃止する。

参加団体一覧

<p>新潟市</p>	<p>サンクプロム石山商店街協同組合 協同組合新潟あきんど塾 新潟水辺の会 にいがた花絵プロジェクト 市民大学「新潟学」自主勉強会 日本ユニバーサルカラープランナー協会 KMM研究会 新潟市都市整備局開発建築部建築指導課都市環境整備室</p>
<p>横浜市</p>	<p>山手西洋館ボランティアネットワーク 横浜シティガイド協会 関内を愛する会 馬車道商店街協同組合 横浜市中区区政推進課 横浜市都市計画局都市デザイン室</p>
<p>神戸市</p>	<p>北野・山本地区をまもり、そだてる会 旧居留地連絡協議会 神戸南京町景観形成協議会 栄町通周辺まちづくり懇談会 新長田駅北地区東部いえなみ委員会 魚崎郷まちなみ委員会 (株)地域問題研究所 神戸商科大学 神戸市都市計画局アーバンデザイン室</p>
<p>長崎市</p>	<p>平和公園地域まちづくり協議会 深堀地区まちづくり協議会 山手地区景観まちづくり協議会 三ツ山町犬継地区まちづくり協議会 大浦青年会 長崎市都市計画部都市景観課</p>
<p>函館市</p>	<p>函館の歴史的風土を守る会 元町倶楽部 函館市伝統的建造物群保存会 函館デザイン協議会 西部町並みクラブ 函館都心商店街振興組合 杉並・松陰・柏木商店街連合会 五稜郭商店街振興組合 湯の川まちづくり推進協議会 西部振興会 協同組合十字街商盛会 (株)はこのたてティーエムオー 一會の会 西部地域振興協議会 函館国際観光コンベンション協会 函館青年会議所 函館の子ン子ン電車を走らせよう会 北海道建築士会函館支部 函館市教育委員会生涯学習部 函館市都市建設部都市デザイン課</p>

**2003年,
横浜で
お会いしましょう!**





発行元

開港50都市景観まちづくり会議

函館大会実行委員会